

2019年度カナダ短期留学報告書

応用生物科学科 農芸化学科1年 井上瑞友

私は、2019年度8月5日から31日にかけて約1ヶ月、カナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学（以下UBC）の短期留学プログラムに参加しました。毎週月曜から金曜、UBC内にあるELIという語学学校に通い、週ごとに異なるテーマについて少人数でディスカッションをしたり、CAさん（アシスタントさん）や学生さんにインタビューをしたり、プレゼンテーションの作成・発表をしたりと、英語のリスニング能力とスピーキング能力に重きをおいたプログラムでした。放課後や週末はELIが提供しているイベントに参加したり、各自自由に行動しショッピングをしたり、充実した時間が過ごせました。

留学をしようと思った理由は、父と母の英語力について留学の経験があるのとないのとで大きな差があることを実感していたからです。留学経験のない父は、多くの英単語や英文法の知識があり、リーディングは母より優れています。一方で、スピーキングの面では留学経験のある母のほうが優れており、海外旅行では毎回母のスピーキング能力に助けられます。母は大学生の時に留学し、実際に英語でのコミュニケーションを経験したことが、自分の英語力に役立っていると言っていたので、私も時間のある大学1年生のうちに留学をしたいと考えるようになりました。また、母は20年以上経った今でもホストファミリーと連絡を取り合っており、私もこのような国際的な交流がしたいと思い、夏季短期留学プログラムの中で唯一ホームステイがあったカナダに決めました。

実際にホームステイを経験し、心から行って良かったと思えました。ホテルや寮はどうしても日本語を話す機会が多くなってしまうけれど、ホームステイは家のルールや洗濯の仕方などを、ネイティブの外国人と1対1で話さなければならない状況に強制的におかれため、会話力が上達します。私は積極的にホストファミリーと話すことを心がけ、実際に使われている会話表現や日常用語を学んだり、こんな場面でこの単語を使うのか、と驚かされたりしました。また、多くの同じプログラムの友達はホームステイ先に日本人のルームメイトがいたのに対し、私のホームステイ先には違う大学に通う外国人の学生が1人と、同じUBCでも時間が全く合わない外国人の学生2人でした。最初は友達と一緒に大学に通うことができ、帰ると1日の出来事を話せることがとてもうらやましく、日本人のルームメイトが欲しかったと思っていました。しかし1週間ほど経った頃、もし日本語が話せる友達がいたら、ホストファミリーとの交流時間が減り、日本人と盛り上がり上がってしまっただろうなと思い、自分のホームステイ先がとても恵まれていると思えるようになりました。私のホームステイ先は比較的の自由度が高く、朝ごはんは好きなシリアルを選んで食べ、ランチボックスはキ

ッキンにあるものの中から自由に作って持っていく、というルールでした。ディナーは午後 6 時で、各自電子レンジで温めて食べました。シャワーは 10 分以上の使用や、午後 9 時以降の使用が禁止されていたので、夕食後は先にシャワーを浴びてからリビングへ行き、マザーとテレビを見ることが多かったです。また、洗濯は週に 1 回でした。選択やシャワーのルールは、カナダの一般的な家庭の習慣で、水を大切にするという意識の表れであり、日本人が見習うべき点であると思いました。立地も良く、学校までは 50 分程度かかりましたが、エクスプレスのバス 1 本で行くことができるのでとても便利でした。また、カナダラインのマリンドライブ駅が近く、40 分ほどかけて家まで歩くとカナダの街並みを感じられてとても楽しかったです一番部屋が近かったルームメイトはパナマ人の 20 歳の女の子で、ヴァンウェスト大学で英語の勉強をしながらグラフィックデザインの勉強をしている学生でした。彼女の母語はスペイン語で、時々英語の発音がわからない時もありましたが、英語を勉強している者どうし、わからないときは理解しようと努力し、コミュニケーションがとれました。私はこの留学で国際的な交流をしたかったので、ホストファミリーからのメールで外国人のルームメイトがいると知って必ず友達になると決めていました。しかし彼女の大学は私の大学より通学に時間がかかり、私が家を出る時間より 1 時間早く家を出る必要がありました。さらに帰宅時間はお互い日によって異なり、会話をする機会がほとんどありませんでした。そこで、彼女と一緒にバス停まで行きたいと伝え、私が家を出る時間を 1 時間早めることで、会話の時間をつくることにしました。一緒に朝ごはんを食べ、ランチボックスを作り、シリアルのおすすめやコーヒーのいれ方、ワッフルの焼き方など様々なことを教えてもらい、バス停までの道で会話をし、徐々に仲を深めました。私は朝が弱かったので、1 時間早く用意をするのがとても嫌でしたが、大学に早く着くので、1 人で学内のスターバックスやティムホートンに行ったり、教室で前日の授業の復習をしたりと、充実した朝が過ごせました。最後の日曜日にはプールパークへ誘ってもらい、彼女の友達を紹介してもらいました。3 人でパークを楽しみ、かなり仲を深めることができました。日本人と出かけるとどうしても日本語を使ってしまいましたが、1 日英語以外話せない環境で過ごすことで、会話力を上達させることができました。また、彼女たちも英語が完璧ではなく、時々スペイン語で会話していて、その様子を見て、私たちはお互いの母語（日本語やスペイン語）を使いコミュニケーションをとることはできないが、英語を学ぶことで共通のコミュニケーションツールを得ている、ということに改めて気づかされ、英語の学習への意欲が高まりました。最後の週には日本人の友達を誘い、彼女の友達も増え、皆でアイスクリームを食べました。留学の目的だった国際交流ができ、とても貴重な経験をすることができました。帰国後も SNS を通じて連絡を取っています。

大学では 9 時から 12 時 30 分までの午前クラス、13 時 30 分から 15 時 45 分までの午後クラスがあり、午前 2 人、午後 1 人の合計 3 人の先生がいました。午前のクラスでは、各週のテーマについてディスカッションをしたり、ゲームをしたりと、スピーキング能力を重点的にやりました。また、ホームワークも発音の違いを録音して先生に送ったり、1 日のお気に

入り写真とそれについての説明を送ったり、習った文法を用いて短文をつくって送ったりと、帰りのバスや移動しながらでもできることが多く、負担にならなかつたので意欲的に取り組めました。ほかにもコメディを見てセリフをリスニングしたり、動きを文章で表したり、スピーチング以外の能力もスキルアップすることができました。午後のクラスでは、一週間の最後にするプレゼンテーションに向けて情報集めや構成を相談し、違うクラスの生徒に向けて発表するという内容でした。情報収集の時間には UBC のキャンパス内にいる学生に話しかけ、質問に答えてもらいました。長い文章から自分の欲しい情報をメモしたので、様々な意見を聞くことができたのに加えて、英語の聞き取りの練習もできました。また、パワーポイントを作る段階では、表現方法がわからない箇所について先生に質問し、正しい文法を学べました。なれない英語でのプレゼンテーションでボディーランゲージを使うことや、聞いている人の目を見るに苦戦しましたが、3回のプレゼンテーションを終え、暗記せずに話す力がつきました。クラス以外にも様々なイベントがあり、サインアップすることで参加できました。特にシアトル旅行では、人生初の陸路での入国をしました。日本は島国で、外国に行く際は必ず飛行機に乗っていたので、バスに乗って国境を超える経験はとても貴重でした。また、陸路の場合はESTAが適用されないことも初めて知りました。シアトルでの活動はとても充実しました。1日目にはパブリックマーケットにあるファーストスター・バックスへ行くことができ、2日目は朝早くからピロシキを食べ、スペースニードルを観光し、帰りに国境にあるアウトレットでショッピングをしました。そのほかにも、バンドウーセンガーデンやリーンキャニオンへ行けるツアーもありました。大学の活動に参加するとCAさんと話す時間がたくさんあったので積極的に話しかけたり、写真を撮ってもらったりと、英語での会話が楽しめました。

私はこの1か月間の留学を経、カナダの特色として、交通機関の充実、多文化社会の定着を感じられました。交通機関を利用する際に使用するコンパスカードは、定期購入ができ、期間内ならバスや電車に乗り放題でした。バスストップや駅の数も多く、特にバスに関してはとても便利でした。バスや電車が乗り放題となる範囲はゾーンで区切られていて、バンクーバーを1ゾーンとすると、バーナビーやリッチモンドへ行くには2ゾーン目となり、1ゾーンのみのコンパスカードを使っている場合は料金が追加でかかります。しかし、週末は1ゾーンの料金で2ゾーン目に行くことが可能になり、追加料金を払うことなく移動ができます。この制度を知った時はとても驚き、交通機関が充実していると感じました。私もこれを利用し、リッチモンドのプールへ行きました。また、交通機関を利用しているときやショッピングをしている時、様々な人種を見かけました。カナダは移民が多い国であり、中華系やインド系をよく見かけました。カナダに住む人々は多国の人人が住んでいることを、当たり前のこととして受け入れていました。日本食や中華のお店も多くありました。日本人や中国人が店員のお店も多く、多文化社会が幅広く受け入れられ、人々の認識の中に定着していました。

最初は長いと感じていた1ヶ月でしたが、本当にあっという間でした。その短い時間で

も、とても価値のある貴重な経験をたくさん得ることができました。それらを英語の勉強をし続ける意欲につなげ、自分の英語力を向上させ、将来に役立てたいと思います。

短期留学で学んだこと

生命科学部・分子微生物学科・加藤紗弥

今回、私が短期留学に参加した目的は2つありました。1つは、英語を学ぶ必要性を再認識することです。これから先、卒業論文や研究を進めていくなかで英語の論文を読んだり、自分で書いたりするために英語力が必要になると感じ、英語学習への意識を高めたいと思いました。2つ目は自分を変えるきっかけをつくることでした。私は引っ込み思案で、自分の意見や考えを人前で話すことや、新しい人間関係を広げていくことに苦手意識があります。短期ではありますが、海外の知らない環境に一人で飛び込んでいくことによって、自身が成長する機会になるのではないかと考えました。また、ホームステイを通して海外の人々の暮らしや言語に直接触れることで、新しい価値観や考え方を得ることも出来たと思いました。

これらの目的を達成するために、具体的な努力目標を設定しました。英語を学ぶうえで心がけたことは次の3点です。

1、日記を書くこと

ただ漠然と日常を過ごすのではなく、授業や生活のうえで気づいたことや反省をメモすることで、現在の自分自身の状況を客観的に判断し、今回の留学で得られるものが少しでも多くなると考えたからです。

2、授業では1日3回以上発言すること

外国の授業では、日本の授業よりも生徒が発言をすることが多く、ディスカッションやプレゼンテーションなどを取り入れた主体的な授業スタイルであると聞いていました。そういった周りの環境に置いていかれないよう、また少しでも多くの事が学べるよう積極的に発言をしていきたいと考えました。

3、覚えた単語や初めて聞いた言い回しなどをメモすること

現地の人がよく使う言い回しや挨拶など、文化に密接した生きた英語を学ぶ機会は今回のような留学でしか得られないと思い、忘れないようメモを心がけようと考えました。

また、自分を変えるという目的のために設定した目標も3つありました。

1、ホームステイの家族と毎日会話を仲良くなること

仲良くなるために話しかけられるのを受け身で待つのではなく、自分から積極的に話しかけていくことを心がけました。

2、現地の大学で自分からクラスメイトに話しかけ、新しい友人を作ること

新しく友達を作ることや、色々な人と関わることは今まで私にとって苦手なことだったので、自分を変えるためにも絶対に必要なことだと思いました。

3、留学プログラム内のアクティビティに参加すること

色々なアクティビティに参加することで、クラスメイト以外の留学生との交流の機会が増やせると思いました。そのため、必ず何かには参加しようと決めていました。また、学校以外の観光名所などに行くことで経験を増やしたり、価値観を広げたりしたいと考えました。

このように具体的な目標を立てたことで、自分が努力すべきことが焦点化され、多くの目的を達成する事が出来たと思います。英語を学ぶ意識を変えるという目的の達成度は全体では70%くらいだと思います。

1、日記を書くことについては、効果的であったように感じます。日記をつける事で、毎日反省点を見つけ少しずつでも前進しようとする意識を持続することが出来ました。もし、日記をつけていなかったら、どこかで自分に都合良く言い訳をして、なんとなく授業を受けるだけになっていたと思います。また、帰国後に読み返したりしても、色々な記憶がよみがえってきて勉強のためだけではなく、思い出としても残すことが出来ました。

2、授業で1日3回以上発言することについては、65%くらいの達成度だと思います。授業が始まって最初のうちは、緊張して全く話せませんでした。また、間違えていないか神経質になってしまい、答えようと思っても勇気が出ずなかなか授業に積極的に参加することが出来ませんでした。しかし、中盤からはミスを恐れないようになり、発言が出来るようになりました。ミスを恐れずに前向きになれたことは、1つ目の目標である日記をつけたことも大きく影響していたように感じます。毎日授業の振り返りをすることで、自分が授業にあまり参加できていないという現状を認識していたため、このままでいいと思い1度思い切って発言をしました。その後から緊張感が少し減り、発言の回数を増やしていくことが出来ました。留学が終わるころには1日3回以上特別に意識しなくても発言することが出来るようになりました。自信もつきました。

3、覚えた単語や初めて聞いた言い回しなどをメモすることについては、55%程度の達成度でした。授業で初めて知った単語やイディオムなどは、メモを取ることは可能だったのですが、現地の学生が使っている言い回しや、お店で店員の方などの言っていることは分からぬことが多い、メモを取ったり、覚えたりするのは難しかったです。

自分を変えるという目的のために設定した目標は、全体で75%くらい達成できたと感じます。

1、ホームステイの家族と毎日会話を仲良くなることは出来ました。帰宅後は、部屋に閉じこもらずに会話をすると、なるべく家で晩御飯を食べるようになります、会話の機会が増えるように工夫をしました。また、会話の話題作りとしてお土産を日本の特色が濃いものを選び、英語で説明が出来るようにしました。ホストファミリーの方々はとても優しくフレンドリーで、学校の話や日本の文化、またはホストファミリーの故郷のイランの文化など色々な話をし、毎日楽しく過ごしました。

2、現地の大学でクラスメイトに話しかけ、新しい友人を作るという目標も達成することが出来ました。話したことのない人に、日本語ではなく英語で話しかけるというのは私にとって簡単なことではありませんでしたが、必死の思いで沢山の人に話しかけました。その結果、クラスメイトとはすぐに打ち解けることができ、授業で協力し合ったり、週末には出かけたりと、親しくなっていきました。長期の滞在で時には寂しくなったり、落ち込んだりすることもありましたが、支えあえる友人がいたおかげで、くじけずに留学プログラムを終了できたのだと感じています。

3、留学プログラム内のアクティビティに参加することの達成度は80%です。私は週末に1泊2日でシアトルに旅行に行くというアクティビティに参加しました。それに参加することで多くの人と新しく友達になることが出来ました。また、アメリカに行くことでカナダとの街並みや文化の違い、陸路で国境を超える経験など貴重な体験が出来たと思います。しかし、このアクティビティ以外に参加することが出来ませんでした。大体のアクティビティが無料で参加することが出来、早めに申し込まないといっぱいになってしまいます。そのため、希望した他のアクティビティの参加出来なかったことがあります、残念でした。

また他にも、今回の留学という体験を通して成長したと感じることや学んだことがあります。毎日英語に触れる事で、リスニング力が強化されました。学校初日では、先生に出された指示を理解することも難しかったのですが、留学が終わる頃には一回で指示を聞き取り、理解する事が出来るようになりました。また、英語を話すことが楽しいと感じるようになりました。最初は完璧な文章を話さなければならないという緊張感があったのですが、文法が間違っていたり、発音が悪かったりしたとしても、相手に通じるという事が分かってからは、積極的に話しかけるようになりました。今回の留学の経験から、英語力=コミュニケーション力であると再認識しました。英語が上手に話せなかったとしても、気にしないでとりあえず使ってみる、話しかけてみる、など実際にコミュニケーションを取っていくなかで英語力というのは身についていくものなのだと身をもって実感しました。また、ミスを恐れないことが勉強と人間関係どちらものカギになっているのだと考えました。主体的に自分から何か行動を起こしていくことで大きな変化や進歩が生まれるのだと深く感じました。今まででは英語圏で生活するだけで英語力は自然に、身につくような気がしていました。しかし、それだけでは英語力がつかないということを体感できたことが大きな成果だと思います。会話だけではなく、論文など文章の読み書きの力をつけることを目指すためには、常に目的意識を持ち勉強をし続けることが重要だと痛感しました。日本でも、語彙を増やしたり、文法を学んだり基礎的な力を伸ばしていきたいです。

今後の取り組みとして、私はTOEICを受けてみようと考えています。TOEICは以前も受けたことがあります。今回の留学でどれくらいの力がついたのかスコアを比較することで具体的に知りたいと思ったからです。

また、私にはタイ人の友達が出来ました。現在も SNS で英語で連絡を取り合っています。このことが私の英語の勉強はもちろん、英語を学び続けるモチベーションにもなると思います。

【持って行って良かったもの】

○衣類や日用品

- ・長袖や羽織ることの出来る服
- ・バスタオル
- ・スリッパ

○勉強

- ・電子辞書
- ・クリアファイル
- ・ルーズリーフ

○日常生活

- ・エコバック
 - ・小さめのサブバック
 - ・クレジットカード（現地で利用可能なカード会社か確認しておくとよい）
 - ・旅行用ガイドブック
 - ・コンパスカード（現地で購入）
- ホストファミリーの方が購入を手伝ってくださったのですが、通常の方で購入してしまった割高でした。マンスリーパスという定期券を購入することをお勧めします。

【用意したがいらなかったもの】

- ・洗濯ネット
- ・ボトルなど大きいサイズのシャンプー、リンス
(旅行用などの小さいものをいくつか持っていくとよい)

【現地で使用したお小遣いの金額】

- ・合計 約 12 万
- お土産、約 4 万
- 生活費、約 6 万
- アクティビティ参加費、約 2 万

3万円くらい現金は持っていました。友達と外食をして割り勘にする時など便利でした。また、大学でピザをランチに食べるアクティビティがあったのですが、それは現金のみだったので少しは現金を持っていくと安心だと思います。交通費が思ったよりもかかりました。

クレジットカードは便利なのですが、いくら使ったか分からなくなってしまうため、レシートをノートに貼るなどこまめにチェックすることが大切だと思います。

【事前に準備、勉強しておくべきこと】

- ・ホームステイでの会話を想定した英会話の勉強（自己紹介や挨拶など）
- ・語彙を増やす（単語帳を読むなど）
- ・現地で行きたいところ、やりたいことがある場合は事前に調べておくとよい

2019年度「カナダ 短期留学報告書」

国際食料情報学部 国際食農科学科 1年 夏目彩加

☆志望理由

私は、高校の修学旅行でシンガポール・マレーシアに行った。初めて感じる異国の地は、私の想像以上に発展していた。しかし、移動中のバスの中から見えたのは今にも壊れそうな家や、貧しさ漂う雰囲気だった。日本は過疎地域と言われるところがあまりないため、日本では考えられないような風景は印象深いものだった。また、観光中に聞こえてくる言語のほとんどは英語。自分が成人して会社に就職するにも、観光しに海外へ行くにも、英語はこれから自分のにとって必要不可欠なものだと感じた。そして親の勧めもあり、独学だけでは学べない何かを感じ取るために、世界的にも有名であるUBC、バンクーバーの地へ行くことを決心した。（もともと海外に興味があったが、高校では部活三昧な日々を送っていたため、大学に入学したら絶対に行くと決めていた。）

☆準備期間

応募数が規定を超えていたこともあり、面接突破が留学に行くための必要項目となつた。とはいっても、入試面接などと違って優しく親身に質問してくれる感じだったため、自分の想いをまっすぐ伝えられた。また、留学前にある程度の会話の流れや単語などを学習した。直前までいいやと思ってしまうと、期末テストと重なり思うように勉強できなかつた。

国際交流センターの先生方がカナダに行く生徒を何回か集めてオリエンテーションを行つてくれたことは、安心して留学に行くための一つの支えだったと思う。

☆留学

初日は羽田集合だった。今までのオリエンテーションで会ったくらいだったが、だんだんと打ち解け、退屈になることなくみんなで盛り上がった。約9時間のフライトでバンクーバー空港に着いた。現地では農大卒の方が2人出迎えてくれた。そこから現地スタッフにより、各家庭に送ってもらった。大体同じ地域のメンバーで車に乗ったが、ほとんどが農大生だった。カナダの道路は多くが縦と横で、広く、名前も決められていてわかりやすい。そして、家に着くとホームステイの家族が出迎えてくれる。私の家はアジア系で、65才の老夫婦だった。第一印象はすごくフレンドリー。家に着いたのがちょうど夕方ごろで、すぐに夕食となった。カナダ人は日本人と比べて、夕食が早いと感じた。アジア系の家庭だったので、毎日タイ米が出た。正直、口に合わなかった。しかし、提供してくれるわけだし、ありがたいと思って食べることができた。ふりかけやお醤油があるとすごくおいしく感じた。家には、もともと3か月留学をしていた日本人学生2人と、就職しているインディアの男の子、同じプログラムで先に着いていた子、そして私の5人だった。私たちが来る2日前まではタイ人の子が住んでいたと聞いた。提供された部屋は広く、綺麗で、大満足だった。初日は夕食を食べ、台所や洗面など家のルールを聞き、少し団らんの時間を楽しんだ。

私の家から、UBCまではバスで通学する。大体30分程度だった。バンクーバーは交通機関が発展していて、バスも5分くらい置きに来る。（バスによって様々だが、どれも待ち時間は短い）電車は、無人運転で感動した。コンパスカードは1か月定期のようなもの

で、遊びに行く時も 1 ゾーン内なら運賃を気にすることなく乗れる。しかし 2 ゾーンに行くと追加料金がかかってしまう。でも滅多に 2 ゾーンに行くことはないと思う。車両も大きく、老若男女問わずたくさん的人が利用している。ここで驚いたことは、多くの人が降りるときに「THANK YOU」と言っていることだ。そんなの普通、、と思うかもしれないが実際に目で見ると、感動し、カナダ人の優しさが分かる。

UBC では最初の 2 日間はオリエンテーションを行ってくれる。敷地も農大なんか比にならないくらい大きくて、隅から隅まで歩くのも必至になるくらいだ。3 日目は、クラス分けテストを行った。会話力、表現力などを見られた。私は緊張してあまり自分の思うように喋れなかった。このテストで AM クラス、PM クラスが決まる。1 クラス 30 人弱で大体 7~8 クラスの構成だった。AM クラスは 2 人の先生によって組まれた。私は基礎を学ぶようなクラスだった。このプログラムには、早稲田・上智なども参加していて、レベルは高い方だと思う。また 9 割が日本人学生であることも、私は知ったとき驚いた。

今回のプログラムでは、1 週目は FAMILY、2 週目は SPORTS、3 週目は SHOPPING、4 週目は GLOBAL ISSUE について学んだ。AM クラスでは、特に表現力・日常会話を学び、PM クラスでは、話す力を学んだ。先生たちに問題提起され、それに関連することを校内でインタビューしたり、UBC の施設を利用して探検をしたりする。UBC には博物館や園芸施設、ティムホートンやスターバックスがある。ティムホートンやスターバックスは校内に 2 つもあり驚いた。

1 番印象深いのはインタビューだ。私は人と話すことが大好きだが、英語はどちらかというと苦手なため最初は奥手だった。でも、笑顔と自分の持っている単語力で乗り切ることができた。回数を重ねていくごとにインタビューすることが緊張から楽しみへと変わった。UBC 内でインタビューしても、観光客に遭遇することが多かった。SPORTS に関するインタビューのときに、ブラジルの方に遭遇したことがあった。ブラジル人のためサッカーハーへの愛が強く、10 分くらい熱弁されたことも今ではいい思い出だと感じる。また、ほかのクラスとの交流も私たちのクラスにはいないキャラの子がいたり、私がうまく使えない文法をすらすらと使う子がいて、私の英語スキルのレベルアップにもってこいの授業だった。レベルの高いクラスは本当に高く、英語を通して仲間もたくさん増えた。そして何より私たちが楽しみにしていたことは、課外授業だ。週に 1 回課外授業があり、先生とクラスメイトとダウンタウンやグランビルアイランドなどに行き、インタビューや、観光をした。普段の授業も先生が沢山喋りかけてくれたり、グループワークで仲間と沢山話したりして楽しいが、知らない土地に行って授業を行うことはすごく楽しい。この時期は観光客が多く、インタビューしても英語が喋れないという人も多かった。

そして学校ももちろんだが、遊びに行くことも毎日の 1 つの楽しみだった。農大メンバー やクラスでできた友達とほぼ毎日いろいろな場所へ行った。UBC は放課後や土日にたくさんのアクティビティを企画してくれる。そのアクティビティの 1 つにシアトル一泊二日の旅があった。バンクーバーはアメリカに近いため、シアトルまではバスに乗って 4 時間ほどで行くことができる。そこでも私たちはできる限り周りの人に声をかけてみることにした。距離は近いけれど、カナダとアメリカの人種の違いもうかがうことができた。私は、本当にカナダ人は優しさであふれていると思う。学校での勉強だけでなく、アクティビティーや観光を通して英語を感じることができた。

私の今回の留学の目的は、日本との違いを現地で感じることと、英語力アップである。私はこの 1 か月で沢山のカナダ文化を肌で感じることができた。そして問題の英語力は、聞き取る力と日常会話は格段とレベルアップできたと思う。しかし文法や単語はこの短期間だけでは思うようにレベルアップできなかつた。だから、今回の経験を糧に、日々努力していこうと思う。

そして今回1番感じたことはカナダの過ごしやすさと農大の仲の良さだ。カナダはこの時期は夜の9時ごろまで明るく、夕飯後もランニングをして夕陽を見たりした。また健康に気を使っている人が多く、ウォーキングやランニングをしている人が多かった。スターバックスも徒歩圏内にあるから、私はこんなに必要かな、、、と思ってしまうほどだった。そして、農大は他大と違って本当に仲が良かった。みんなで遊びに行くことがあったり、勉強を教え合うことができたり、他大の皆に驚かれるほど仲が良かった。このメンバーで行って良かったと心から思った。

☆持って行ってよかったもの

- ・電子辞書・ふりかけ・手土産（ここから家族と会話を広げることができたから）現地で使うお金は人それぞれだと思うが、買いすぎないように心掛けた結果、私は9万円程度だった。バンクーバーの夏は日本の夏よりも過ごしやすいため、長袖でも充分過ごせる気候だ。私は半袖でいいやと思っていたけれど、長袖を3着買いました・・

☆特に必要なかったもの

- ・特になし 想像以上にホームステイ先に何でもそろっていたため必要最低限のものがあればなんとかなると思う。私は、洋服は少なめに持つて行って現地で買った。充電器が壊れた時も現地調達できた。だから、心配はないと思う！

☆難しかったこと

- ・チップ チップの払い方が分かりにくかった。とりあえず10~15%位を目安に払うといいよと日本食店の日本人の方が教えてくれた。
- ・交通機関 バスや電車の乗り方も、マップやアプリを使うだけではわかりにくい時もあるから、せっかく語学留学で訪れているわけだし、不安な時は本当に行けるかどうか運転手やカナダの方を捕まえて聞くといいと思う。

☆事前に勉強しておいた方がいいこと

- ・日常会話で使う単語+αでよりたくさんの単語を知っているとよい
- ・国際協力センターの方で用意していただける日常会話の流れは1度目を通しておくといいと思う

☆アドバイス

私はできなかったけれど、毎日のことを英語で日記にするとよいと思う。ルームメイトの子が書いたのを見せてくれたが、観光に行った時のチケットなどを添えた英文日記は何にも代えられない一番の思い出になると思った。

英語が苦手な子でも、消極的にならずにどんどんしゃべりかけた方がいいと思う。私はバスで3、4人の方に声をかけていたいたいたり、乗るバスを間違えて終点まで気が付かなかつた時に運転手さんに喋りかけたところ、わざわざ路線違うのに近くまで送ってくださったり、とにかく心の広い方が多いのがバンクーバーの魅力でもあると思う。

あとは、チャイナタウン周辺など治安の悪い場所は避けること。

以上です！！

2019 年度「カナダ短期留学報告書」

農学部・農学科・3年・吉田モモ

私は、以前から留学に興味はあったものの、タイミングが悪く行けるチャンスがありませんでした。そして今回、大学3年生の夏という留学できる実質最後のチャンスに UBC での語学研修を見つけました。研究室の活動もあったため、はじめは申し込むか悩みましたが、このチャンスを逃せば二度と行けないのではないかと思い、挑戦することを決めました。私の考えとして、英語は「語学」ではありますが、コミュニケーションをとるための一つの「ツール」だと思っています。そして今回の留学は英語が第一公用語となっているカナダでのホームステイでした。そのこともあり、留学に参加する当初の目的はコミュニケーションツール・意思表示の手段として英語を使えるようになることでした。

カナダに着くと、空港でコーディネーターの方に点呼され、何も分からぬままホームステイ先に降ろされました。ホストファミリーはメキシカンカナディアンだったので、今までリスニング CD や YouTube でしかネイティブスピーカーの英語を聞いたことのなかった私は、ファミリーが何を話しているのか聞き取れませんでした。それは、リスニングの力不足だけでなく、R をはつきり発音する、今までに聞いたことのない英語だったことも理由の一つだったと思います。それから1週間はほとんど聞いて、軽く受け答えするだけの生活が続きました。初めて勇気を出したのはランチに持っていたサンドウィッチについてでした。毎日ホストマザーがサンドウィッチを作ってくれていたのですが、それに使われていたパンの種類がどうしても好きになれず、ある日とうとうマザーに伝えました。食べられない訳ではないがどうしても好きになれない、このニュアンスをなれない英語で伝えるのはとても難しく、とても緊張しました。ですが、いざ伝えてみると、意外なことに嫌な顔一つせず、「そうなのね。分かった、ほかの種類に変えるね。ちなみに、中の具材はどう? ハムで良かった? ツナやチキンもあるけど。」とさらに意見を聞いてくれました。そこで私の緊張や不安は無くなり、突っ掛かりながらもホストファミリーと会話をするようになりました。R が強調される話し方はなかなか馴染めず、何度も聞き返しましたが、そのたびに繰り返し言ってくれたり、ほかの単語に言い換えてくれたりしました。自分も使いたい単語が分からない時には、ほかの言い回しを使ったり、詳しく説明して単語を教えてもらったりしました。こうして食事の時や家に帰ってきた後にする日常会話は、「英語を話す」という行為に対して気づかないうちに持ってしまっていた壁や不安を取り除いてくれました。

UBC の授業が始まると、モーニングクラスでは文法や発音を中心に勉強しました。そしてこのクラスには、はじめにルールが作られました。①教室の中で日本語を話してはいけない。(ELI の建物内はすべて同じルールが設けられている。) ②辞書やスマホで単語を調べては

いけない。③リアクションも英語で行う。「へえー」は禁止。などでした。しかしこのルールが私の力を大きく伸ばしてくれたと今は思います。お互いにコミュニケーションをとる時やディスカッションを行う時にも英語しか使わないので、自然と文章を頭の中で考えるのが早くなり、1週間もすると、脳内で完全な文章を作らなくても、自分の話したいことが伝えられるようになりました。また、分からぬ單語があると、クラスメイトや先生に英語で説明して教えてもらうので、伝えたいことを的確に話す努力をたくさんしました。自分から話しかける勇気は無かったのですが、休み時間になると先生は週末の出来事やその日の天気、バンクーバーの観光地について話を始めてくれることが多かったので出来るだけ先生のそばにいて、自分が話し出せるタイミングをはかっていました。そうすると会話の練習になるだけでなく、先生が文法のミスを指摘してくれる所以、気づかず流してしまう様な小さなミスもその都度直していくことが出来ました。

また、モーニングクラスのなかで英語の文法に関するプレゼンを自分たちで行いました。2~3人で1チームとなり、パワーポイントスライドを用いて30分間のプレゼンとアクティビティーを行うものでした。私は1番最初のチームで完了形について説明を行いました。文法について説明すると考えるととても難しく感じますが、このプレゼンは私にとってとても役に立つものでした。今まで英語の文法、特に完了形はよく分からぬまま放置していましたが、プレゼンを作るために完了形を英語で理解しようとすると、驚いたことに、とてもわかりやすく、今まで曖昧なままだった部分が、雲が晴れたようにクリアになっていくのを感じました。なかなか準備が大変なプレゼンでしたが、その分得られた力は大きかったです。

アフタヌーンクラスでは、その週のテーマにそってプレゼンを作りました。スポーツの週は新しいスポーツやゲームを考え、消費者、ショッピングの週は実際にキツラノに行き、お店を調べて自分流の広告をプレゼンしました。最後の週にはカナダの偉人を調べてプレゼンをし合いました。毎週毎週プレゼンを行い、何度も同じ内容を話していたので、回数を重ねるごとに自分のプレゼンのスタイル、話し方、ジェスチャーなどが確立し、より良くなっている様に感じていました。周りのクラスメイトを見て、良いところを取り入れ、聞いている人からどうみられるかを意識しているうちに、全員の話し方や目線に自信がついていくのが分かりました。メモを作り、読み上げるのではなく、自分の言葉でアドリブを加えながら相手に伝える練習がたくさん出来ました。

当初の目的として、意思表示のツールとして英語を使える様になることを掲げていたので、時間のあるときには、カフェやショップに行き、注文や店員さんに質問をし、公園や植物園に行ったときには積極的に挨拶をし、会話の糸口を探っていました。このときに重要なのができる限り一人で行くことです。日本人の友達と一緒に出かけるのはとても楽しく、日本語で話すことが出来るのでとても楽です。ですが、大きな声で日本語をしゃべりながら町を歩いていると、たとえUBCのパーカーを着ていても日本人観光客にしか見えず、現地の方には全然話しかけてもらえない。私は良く一人で放課後カメラを持って遊びに行き、写真

を撮っていました。このカメラがまたコミュニケーションのきっかけによくなりました。私は趣味でカメラを持っているだけなのですが、カメラをもっていると写真を頼みやすくなるようで、カナダ、シアトルにいる間に計5組の家族写真を撮りました。カナダの方はとてもフレンドリーで、植物の写真を撮っているときにも「何を撮っているの?」「きれいなお花ね。」と話かけてくれ、家族写真を撮ってあげると「あなたの写真も撮ってあげる。」と逆に撮ってもらうこともありました。もちろん一人で行っていたので写真も一人でしたが。。。もう一つ私が普段から気を付けていたことは、誰かとすれ違う時にはちらっと目を合わせて、にこっと笑いかけることです。見ず知らずの方に挨拶をするのは少し変かなとも思ったので声は出しませんでしたが、目を合わせて笑顔ですれ違うだけで相手から挨拶をしてくれたり、それがきっかけで会話が始まるものもありました。特にホームステイ先のお家周辺では、夕方になるとお庭に水やりをしている方やお散歩をしている方も多かったので、よく声をかけてもらいました。現地の方々とお話しできるミートアップに参加するのも一つの手段として良いと思いますが、私はとにかくシンプルな服装、一人で行動、笑顔で挨拶を心がけ、できる限りカナダに住む方と同じように行動することを意識していました。それが観光客扱いされない、一番の近道だと思ったからです。

カナダ短期留学に行って学んだことはもちろんたくさんありました。ですがそれ以上に、英語を話していい環境にいるだけで、自分がこんなにも英語が話せるのだということに気がつき、驚きました。また、今までリスニングの時には英語を聞きながら同時翻訳をし、日本語で理解しようとしていましたが、毎日英語を聞き続けたことで英語を英語のまま理解するよう自然と変わっていきました。当初の目標であるコミュニケーションツールとしての英語を身につけるという点においては、まだまだ改善すべき点はあるものの、おおむね達成出来たのではないかと思います。

今回身につけた英語のスキルはもちろん、プレゼンのスキル、コミュニケーションのスキル、度胸と自信は必ず今後に生かせると思います。来年には2020東京オリンピックもあり、多くの方が日本に来てくれるでしょう。しかし、今の日本では読み、書きを重視した英語教育がまだ多いため話すことの出来る人は決して多くありません。今回のこの貴重な体験を人助け、人ととの橋渡しに生かすことが出来たら、それこそ目標を達成したことになるのではないかと考えています。経験を経験のまま終わらせるのではなく、これから的生活や社会の中で生かせるよう意識して過ごしていこうと思います。

持って行って良かったもの

- 長袖（向こうでUBCのパーカーを買えば別にいいのですが、正直半袖無くても生きていけます。むしろ長袖無いと死にます。）
- 爪切り（2週間で結構伸びます）
- 帰りに荷物が増えた時用のボストンバック的なもの。（重量超えたときに小分けにして乗り切れます。）

- 洗濯ネット（ホームステイ先によってシステムが違うと思うのですが、ほかの同居人と洗濯物が混ざらないですみます。）
- USB（あるとまあまあ便利。向こうで買えるけど。）
- ノート（割と必須。ルーズリーフが便利かも。）
- カメラ（楽しい。）
- シャンプーなどお風呂グッズ（ホームステイ先によるけど、何もないことが多いかも。）
- スリッパ（無くてもいいけど、あったほうがいい。）
- 傘、レインジャパンバー（雨降ります。）
- ティッシュ（割と使う）

用意したけどいらなかったもの

- 洗濯ばさみ（今時ほとんど乾燥機）
- 暑さ対策、汗ふきシートなど（暑くない。汗かかない。）

持って行った方がいいもの

- ラップトップ系（ノートパソコン、タブレットなど。プレゼンがあるクラスになったとき、割と必須。）
- 長袖（っていうか厚手のパーカーとか。寒い。）
- ドライヤー（ホームステイ先によるけど基本無い。）
- 冬に使うような保湿用品（かさかさになります。）

現地で使用した金額

- 現金=約 100 ドル（あらかじめ 200 ドル替えていきました。）
- クレジットカード=約 87000 円（870 ドル？ほとんど全部カードで払いました。なれない小銭はすぐ出せないし、とにかく楽なので。。。あ、VISA とかマスタークードがいいと思います。JCB が使えなくて困っている子がいました。）

事前に準備、勉強しておくべきこと

- コンパスカードはどこでも買えるけど、マンスリーの 1 ゾーンで大丈夫です。
- UBC の学生証を作りますが、博物館など見せるだけの割引は出来ますが、UBC bookstore や SUBWAY などの割引は残念ながら対象外です。
- カナダの文化、観光地は知らないで大丈夫です。むしろ知らない方が会話が続きます。
- ELI の授業内容も知らないで大丈夫です。だからこの報告書の真ん中は読まなくて大丈夫です。
- 事前に何にも知らないで、突然放り込まれて私はとても楽しかったし、正直何とでもなるので楽しむ気持ちだけ忘れずに！あ、あと以外と治安はいいので（場所、時間による）

かばんを前に持つ必要は無いです。私ずっとリュックでした。

- 最後に、カナダは物価がえらく高いです。なのでお金のことは気にせず、遊びほうけてください。
- ティムホートンのフレンチバニラはおいしいです。
- 少しでもお役に立てたら幸いです。それでは。



ELI 教室内



ランチのサンドウィッチ



2019年度カナダ短期留学報告書

農学部・生物資源開発学科・2年・佐藤亜海

さて、これは帰国報告書なので、来春・来夏にカナダに行きたいと考えている人達の目に触れるものである。あまり堅苦しいと、ただでさえ字数4000字以上と多い帰国報告書を読むことにうんざりすること必至である。実際、私もその一人であった。そこで、私の報告書だけでも気楽に読んでいただきたいと思い、かなりフランクに書かせていただくことを先に断っておく。書くべきことはしっかり書くのでそこは安心していただきたい。

まず私がこの国に行こうと思った目的であるが、一番の目的はカナダを体感することだ。当たり前だが、カナダの環境は日本のそれとは全く異なるものである。生物学的な環境も異なっているし、人文科学的な環境も全く異なっている。そのどちらにも私は興味があったので、前からカナダに行ってみたいと思っていた。次に重要な目的は英語を勉強することだ。日本でも大学で外国人の先生から英語を学んでいるが、他の国ではどういう教え方をするのか?とふと考えた。カナダ留学では本格的に英語を学べることで、これは好機だと思い参加した。その他にも、TOEICリスニング対策としてカナダ英語の発音を習う、というのも目的の一つだ。私は今年の2~3月にも大学のプログラムでオーストラリアに3週間ほど留学したのだが、その留学理由の一つもこれである。というのも、TOEICリスニングの勉強をしている時、決まって正答率が悪いのがオーストラリア人とカナダ人が問題文を読むときだったのだ。時間のある大学生のうちに留学しておきたいというのもあり、これらの理由からカナダへの留学を決めた。

次にカナダで行ったことについてだが、書きたいことが多すぎて困った。が、泣く泣く話題を選抜し、それらについて簡単に話させていただく。まず、勉強について。私達が留学したのは、カナダ・ブリティッシュコロンビア州バンクーバーに位置するブリティッシュコロンビア大学(University of British Columbia:以下UBC)だ。厳格に言うと、そのUBCの中にあるELI(English Language Institution)で英語を学んだ。ELIとは、英語を母語としない人が英語を学ぶための施設である。簡単に言えば、大学の運営する英会話教室、と言ったところか。カナダに着いた翌日に、私達はちょっとしたテストを受けた。十数人程度のグループでペアを作り特定の話題について話し合うテストと、そのグループで輪になって座り、審査員であるELIの先生と一对一で一つの話題について1分ほどスピーチするテストの2つだ。これにより、習熟度別にクラスが編成される。ELIの授業には、午前クラスと午後クラスがある。それぞれ担任が異なり、通常それぞれ先生は1人だが、クラスによっては2人で授業を行うクラスもあったようだ。週によってテーマがあり、1週目は「community」、2週目は「sports」、3週目は「consumerism(消費主義)」、4週目は「global citizen」だった。クラスでは、テーマに沿った読み物や単語の勉強の他に、英語の発音やdidja(did youのくだけた形)などの現地の人の文の読み方なども習った。ELI

での学びで興味深かったのが、アクティビティだ。クラスでダウンタウンに向かつたり、テーマに関連した施設を訪ね、ペーパーワークをしたりと、教室で学ぶだけでなく、教室の外で学ぶ機会が多くとても楽しかった。また、毎週木曜日の午後のクラスでは複数のクラス(2~3クラス合同)でまとまって発表をし合う。例えば、2週目のテーマである

「sports」の時は、3クラスが集まって2つのスポーツについて英語で説明、実際に遊んだ。また4週目のテーマである「global citizen」では、私達のクラスはディベートを、他のクラスは取材した店の解説動画を発表した。木曜に何をどのように発表するかは完全に先生次第のため、こればかりは運ゲーだ。自分に合った先生に当たるよう祈ろう。ちなみに、クラス内で優秀な働きをした者は、ロータリーチケットがもらえる。このチケットに名前を書いてボックスに入れると、ELI最終日に抽選でUBCTシャツが当たる。これをちょっととした楽しみに、英語学習を頑張ろう。



↑午前クラスの集合写真。このクラスで学べてとても幸せだった。

次にホームステイについて。私のホームステイ先はシングルマザーのお家で、娘は独立済み、既に留学生300人余りを泊めたベテランだった。ステイしたのは私と同じELIのプログラムに参加した上智の女の子だった。例外もいたが、ほとんどの生徒は同じプログラムを受ける他大学の生徒とホームステイしていたようだ。ホームステイする生徒は平均一つの家に2人だが、1人ないし3~4人のところもあったようだ。また、ホストファミリーの国籍は実に多様で、私の場合アメリカ人だったが、他の生徒はインド人であったり、中国

人、オーストラリア人、イギリス人などであったりした。ステイ先のファミリーの国籍などは選べないのであしからず。カナダでは様々なバックグラウンドを持つ人が暮らしている。これもカナダの立派な文化なので潔く受け入れよう。さて、私のホストファミリーについてだが、アメリカの人なので発音なども比較的聞き取りやすく、ランチ・ディナーもしっかり作ってくれた。特にディナーは毎回野菜が入っていて栄養面でとても助かった。会話についてだが、朝食やディナーと一緒に食べる時はマザーとよく話をしていた。時々会話についていけないこともあったが、その時は何度も聞き直して理解しようとした。そして、観光では、ダウンタウン、チャイナタウンなどのバンクーバー中心部からシアトル(アメリカ)まで、実に多くの場所を訪れた。マザー曰く、バンクーバーに来たなら、「Whistler(ウィスラー)」、「Granville island(グランビル・アイランド)」、「Stanley Park(スタンリーパーク)」は必ず訪れるべき場所だそう。もちろん私はその全てに行つた。



↑Whistler。山の頂上まで登るゴンドラは約 70 カナダドル(約 6000 円)と高価だが、行く価値はある。晴れた日の頂上は絶景。

バンクーバーを観光していると、日本との共通点や相違点がたくさん見つかってとても面白い。ちなみに、ELI はよく週末にツアーを組んでいる(申請制、割と早く埋まる)が、私は、どうしても行きたいもの意外には参加せず、友達と個人的に行くことをオススメする。その方が日本語も話せる(ELI の組むツアー中はもちろん英語で話さなければならな

い)し、何より自分のペースで観光できる。今年のELIツアーハは私にとって魅力的なものが少なかったため、参加せず友達と1日どこかに出かける、ということが多かった。が、あくまでこれは私の場合であり、英語にどっぷり浸かりたいならELIツアーハに積極的に参加するのも有効な手段であるため、各々の好きな方を選ぶと良い。

さて、以上の経験からの目標の達成度だが、一番の目的である「カナダを体感する」ことについては、達成度は文句なしの100%だ。カナダの現在に至るまでの背景や、カナダの植生や動物相を知ることができた。これだけで私は十分満足だ。第2の目的の達成度は80%ほどだろうか。ELI以外の場所や観光時は日本語を使っていたため、そこも英語にしたらもっと英語に触れられたなあと思ったからだ。別に後悔は全くしていないが。カナダ発音についてはよく分からない。先ほど言った通り、カナダには移住者が多く、多文化であり、TOEICの問題に使われた人のバックグラウンドが分からぬからだ。だが、オーストラリア英語よりは若干聞き取りやすかった気がする。

今後は、この経験を生かして、さらに英語の学びに力を入れていきたいと思う。TOEIC受験はもちろん、英検準一級にも挑戦してみたいと思っている。英語による会話もかなりしやすくなったと思うので、後期の英語の授業でその成果を試してみるつもりだ。

持ってきて良かったと思うのは、日本のお菓子やポケットWi-Fiや充電器、あとハンガーや洗濯ネットだろうか。日本のお菓子は日本が恋しくなった時にぴったりな上、日本人のクラスメイトの受けが良い。カナダにはフリーWi-Fiスポットがたくさんあるが、繋がりが常に良いとは言えないのでポケットWi-Fiを持っておくと安心だ。女子は服をたくさん持ってくるだろうから、100均でいいので洗濯物関連用品を持ってくることをオススメする。あと、ホストファミリー向けのお土産についてだが、事前にメールで好きなものを聞いておくとハズレがない。ちなみに鳩サブレーはオーストラリアでもカナダでも受けた。オススメである。洗面用具は現地調達できるので余程のこだわりがある人以外は大きなボトルなどを持ってくる必要はない。お金は、現金では420ドル(約4万円)、クレジットカードは6~7万は軽く超えていたと思う。カナダはクレジットカード文化なのでクレジットカードは持っていた方が良い。

注意事項について、まずELI関連。私達の参加した2019年夏プログラムでは、日本人が9割、その他外国人(私が行ったときはメキシコ人、韓国人、中国人、台湾人、北朝鮮の人などがいた)が1割であった。外国人に囲まれて英語を学びたい人には残念だが、1ヶ月共に学ぶのはほとんどが「日本人」だ。その点をちゃんと理解した上でこのプログラムに申し込んでいただきたい。また、クラスには外国人(北朝鮮、中国、韓国)がいた。もし少しでも異文化を知りたいなら、テストを頑張って上のクラスにいけるよう日本で勉強しておくのも手だ(レベルがあまり高くなくても、外国人の多いクラスもあったが)。そして、とても大事なポイントを一つ。ELIの施設内では、一切の母語を話すことを禁止されている。つまり常に英語を話さなければならない。これはクラス担任にも言われるが、万一日本語を話したことがバレた場合、UBCの学生証(これを持っていると、大学内の博物館

の入場料が無料になるなど、様々な恩恵を受けられる)を取り上げられ、最悪 ELI を追放されかねないので注意。といっても、いざプログラムに参加すれば、(レベルの高いクラスであればあるほど)他の人も英語で話そうと努力する為、自然に自分も英語のみを話すようになるだろう。また、週ごとにテーマが決められているが、テーマは同じでも、クラス(担任)によって行われる授業の内容は微妙に異なる。例えば、私のクラスの担任は、パワポを使った発表は行わなかったが、紙によるプレゼンはよく行っていた。一方、他のクラスの担任は発表の際に iPad を用い、パワポを使わせていることもしばしばだった。次に、ホームステイ関連について。来年はどうか分からぬが、基本的にホストファミリーは大学側によって自動的に決められる。そのため事前アンケートなどでこちらの要望は聞いてくれない。200 人もいる生徒を振り分けるのだから当然といえば当然かもしれないが。ファミリーとの相性もソシャゲのガチャよろしく運ゲーということだ。ところで、これは注意事項というよりはカナダで充実した時を過ごすためのコツのようなものだが、会話に積極的に参加することは、自分の英語力を高める上でとても重要だと思う。カタコトの英語でも、ジェスチャーやスマホ、そして何よりも伝えたい、という態度があればファミリーはこちらの言いたいことを頑張って理解しようしてくれる。内容が曖昧でも、使っている単語が適切でなくても、文法がグチャグチャでも、相手には意外と通じるものだ。ぜひ失敗を恐れずにどんどん話しかけていってほしい。これが英語力上達の近道だ。

この報告書が、カナダに行こうか迷っている人の助けに少しでもなったら幸いである。

カナダ夏期短期留学報告書

生物生産学部・食香粧化学科・1年・佐藤亜美

私にとってこの留学ははじめての留学であり、はじめての海外でした。

私の留学の目標は、充実した生活を過ごし、日本との違い、現地で感じたことや経験したことから、留学をした後に周りにいい刺激を与えられるような人になることです。私がこの夏、カナダへの留学を選んだのは水道水が飲める数少ないきれいな国で治安がいいと聞いていたからです。オホーツクキャンパスからこのプログラムに参加したのが私だけだったので、全く新しい出会いと生活に対して不安な気持ちでいっぱいでした。しかし、成長した自分に早く会いたいという期待が大きかったです。

一人暮らしの家から直接向かうことが一番の不安でした。昨年 UBC に留学した先輩が親身になってたくさん話を聞かせてください、サポートしてくださいました。先輩にたくさん話を聞き、情報を集めておくことができたのは現地で役に立ちました。私は、乗り換えるためかなり早く羽田空港に着きました。その日、様々なトラブルによってみんなと同じ便で飛ぶことが出来ず、ひとりでショックと不安でいっぱいになりました。この時ばかりはいつも前向きな私もくじけそうになりました。しかし、1 日遅れでバンクーバーへ着いた後、温かいホストファミリーが迎えてくれて張り詰めていた緊張が解け、充実させようと奮起しました。

私はこの留学にひとりで行き、トラブルを乗り越え、全員が初対面、言語も違う、誰にも甘えることのできない状況で生きている状況を客観的に捉えたときに、何か変われそうな予感がし、ワクワクしました。1 日遅れて着いたことで知らぬ間に私の名前が広がっていてたくさんの人が話しかけてくれました。特に農大の他キャンパスの仲間が積極的に声をかけてくれて嬉しかったです。たくさん人の優しさや温もりを感じました。私はとにかく学校の授業が楽しかったです。先生たちが親しみやすく、クラスメイトも自分をしっかり持った意思のある人たちでした。クラスメイトとは最終週にクラス会を開くほど仲良くなれて幸せでした。最初はうまく聞き取れなかった英語もホストファミリー、先生、友達と英語でコミュニケーションを取る日を送っていると自然と聞き取れるようになりました。分からぬ単語は違う表現で言い表すことで伝えようと努力しました。最後の週にはホストファミリーと冗談を言いながら話ができるようになったのは大きな成長だったと思います。 クラス分けテストを受けることが出来なかつたので、私だけ面接官の方と自己紹介を含めた会話をしました。日本に住んだことのある方で、話が膨らみ楽しんで話すことが出来て、英語を話すことに対する抵抗がほとんどなくなりました。私のホストファミリーは、ホストファザーヒトリでしたが、毎日おいしい手の込んだディナーを作ってくれました。そして、家を自分の家のように使っていいと許可してくれたので快適に約 1 ヶ月過ごすことができました。ホストファミリーや授業、アクティビティで様々な人と交流する機会がありましたが、カナダの人は褒めるのが上手だと感じました。これは本当に素敵な文化だと思いました。カ

ナダの人は多くの民族を受け入れてきたため、自分と違う意見を持った人に対しても寛容に受け入れて心に余裕があるように見えました。

1週目はコミュニティ、2週目はスポーツ、3週目はコンシュマリズム、4週目はマルチカルチャリズムについて学びました。どの授業のテーマも興味深い内容で1週間同じテーマについて授業を受けていても新たな発見ばかりで飽きませんでした。午後の授業では毎週木曜日にプレゼンテーションを発表しました。英語での準備段階が一番大変でした。金曜日の午前の授業で、ボーリングに行ったり、大学内の博物館やツリーウォークに行ったり、アクティブに英語を学びました。日本で受けているような座って聴くだけの授業とは違い、たくさんの人と議論し、様々な考えを聞く機会を持つことができました。さらに、自分が国の一員として深刻に問題を掘り下げていく授業が多く、社会的な物事の本質を見抜き考える力が身につくと思いました。

私が最も興味を持ったのはマルチカルチャリズムについての授業です。この授業ではマルチカルチャリズムとは、グローバライゼーションとは、グローバルシチズンシップとは、などを学びました。マルチカルチャリズムとは多文化主義のこと、まさにカナダのことです。マルチカルチャリズムの対義語はモノカルチャリズムです。日本はモノカルチャリズムで、他の文化が自然と日本の文化になることはありません。日本の文化の形以外の文化の形があると知らなかつたので衝撃的でした。カナダの多文化主義を学び、すべての人を地球上に住んでいる同じ住民と捉える考え方があると知りました。多文化主義の問題点もたくさんあることも学び、社会の仕組みの難しさを知りました。そして、日本は海外の人にとって定住しづらい社会と考えさせられました。この場所に住みたいと思った人が快適に住みやすい社会とはどんな社会なのか、日本語ですら表現するのが難しい問題でした。正解のない永遠の課題だと思いました。世界の問題は地球の住民として共有していく責任があるとも考え方させられました。色々な国出身の人にインタビューをして多くの刺激を受けました。

カナダで感じたカルチャーショックは、小さなことを気にしないおおらかな人が多いことです。虫や野生の動物がいても動じずに、自然と共生していると感じました。そして、何よりも街を歩いている人からバスの運転手までとにかく優しくしてくれました。近所を歩いていても挨拶をしてくれたり、バスで世間話を話しかけてくれたりすごくフレンドリーな人が多いです。車も歩行者を優先で走り、バスを降りるときはバスの運転手に感謝を述べることに心が温かくなりました。ひとりでバスに乗ってウィスラーに向かうときに、バス乗り場が分からず女性に尋ねると親身に私の拙い英語を聞き取ってくれようしてくれました。さらに、停まっていたバスの運転手に尋ねてくださり、正しいバスに乗ることができました。私は方向音痴で頻繁に迷子になりましたが、何度もこうした街の優しい方々に助けられて目的地へとたどり着くことができました。

金曜日の放課後から日曜までは大学が休みでした。休みを使い、コンパスカードで様々なところへ観光に行きました。ダウンタウン、グランビルアイランドへは気軽に受けたので何度も行きました。アクティビティでシアトルへ行きましたが、税関で4時間待機させられました。予定通りに物事は進まない日本との違いを感じました。シアトルの夜に観覧車に乗

りました。シアトルの夜はバンクーバーに比べてネオンがキラキラしていました。カナダとは違いアメリカは銃社会なので夜出歩くのは怖かったですが、人通りの多い通りを選び綺麗な景色を見ることができたのでよかったです。次の日は朝食にフレンチトーストを食べるために早起きをしました。朝の景色はバンクーバーの方が綺麗だと感じました。Amazon Spheres ではドームの中で森林浴をしているような感覚になりました。CA さんとパークプレイスマーケットの中にあるガムウォームとシアトルの名物クラムチャウダーのあるレストランへ行きました。バンクーバーよりも自分が外国人であることを感じさせられました。バンクーバーがいかに外国人にとって過ごしやすいかを体感しました。3週目の週末にひとりでメトロタウンにショッピングへ行きました。カフェで注文するのにもすごく勇気がいました。しかし、ひとりでショッピングに迎えたことが私に自信をくれました。私のホームステイ先はメインストリートに近かったので何度も訪れました。お洒落なカフェが多く、同じバスの友達と朝活としてカフェへ行き、1日をスタートさせた日もありました。スタンレーパークは UBC の生徒にインタビューをしたときに全員が行くべきだと勧められました。金曜の午後に自転車を借りてスタンレーパークの中を一周しましたがダウンタウンからすぐのところにあるにも関わらず、自然が豊かで夕日が綺麗でした。野生のアザラシもいて驚きました。その後イングリッシュベイビーチへ行きましたが、そこはロマンティックな雰囲気が漂っていました。最後の週末には1泊2日でビクトリアへ行きホエールウォッチングをしました。街中の花も綺麗で料理も美味しく、日本でなかなかできない貴重な経験をしました。ウィスラーではゴンドラに乗り、景色を楽しみました。たこ焼きをルームメイトの日本人とリッチモンドナイトマーケットで食べました。日本のたこ焼きとは違い、何かが物足りなかったです。推測としてはだしの味がなく小麦粉を溶かしただけの生地でした。外国の日本食も食べてみたかったので楽しむことができました。

放課後にはキツラノビーチでヨガをしたり、カフェやレストランで食事をしたり、ビーチを眺めたり、展望台へ行き夜景を見たりなど活発に動き回りました。

週末や放課後の時間を充実させるために、ひとりでも数人組でも時間的有效的に使うことができるようになりました。

私はこの留学で、語学だけでなく多くのことを学びました。日本では、留学でしていたようにたくさんの人の意見を聞き、自分の考えに深みを出していけるようにしたいです。カナダの人々の優しさに何度も救われたので、困っている人がいたら自分から声かけようと思います。さらに、家で堕落していた休日の時間を外に出て充実させた日々を送りたいです。そして、勉学でも日常生活の中でも積極的に遠慮せずに学んでいこうと思っています。その結果、周りにいい影響を与えていたら嬉しいです。

持って行ってよかったもの

- ・ウエットティッシュ
- ・ボストンバッグ
- ・圧縮袋
- ・小さな肩掛けバッグ(貴重品入れ)
- ・長袖(結構寒い)
- ・洗濯ネット
- ・トートバッグ(レジ袋は有料が多い)
- ・サングラス
- ・帽子(日差し強い)

いらなかつたもの ノースリーブの服

お小遣い

現金 4 万

カード 2 枚

現金は持ってなくとも過ごせました

来年度へ

英語で家族のことや自分に興味のあることについて理解していると初対面の人ともたくさん話すことができて話が弾みます。英語の先生と積極的に話して本場の英語に慣れておくといいかもしれません。

2019年度「カナダ 短期留学報告書」

応用生物科学部・農芸化学科・2年・三浦 寛子

1. 短期留学プログラムへ参加した当初の目的

私が夏期短期留学に申し込んだ目的は二つあります。一つ目は、実践的な英語力を身につけることです。大学の英語(三)のAクラスでネイティブの先生の授業を受けていました。先生から問い合わせられても伝えたいことが上手く英語で表現できずに、もどかしさを感じていました。その度にもっと自分の思いを英語で話すことができれば、自分自身のことだけでなく日本についても多くを伝えることができたはずだと悔しい思いをしました。そして、互いの考え方や気持ちを伝え合い、理解しあうためには、円滑なコミュニケーション能力が必要不可欠であると痛感しました。こうした理由からもっと英語で会話をできるようになりたいと思いました。

二つ目は、様々な国の人々との交流を通して異文化を学び、視野を広げ人間的に成長したいという目的がありました。高校時代にベトナム・カンボジアの海外研修に参加したことをきっかけに、もっと自分から積極的に外国に出てコミュニケーションをとり他国を知りたいという思いからでした。

2.目標達成のために現地で活動した内容

カナダでの約1か月間は実践的な英語を学ぶことができ、五感でカナダを感じることができた貴重な時間になりました。現地で活動した内容を「大学での学び」、「大学以外での学び」の2つに分けて紹介します。

まずは「大学での学び」です。カナダに到着してから大学の車でホームステイ先に連れて行ってもらいました。次の日から大学にさっそく登校でした。オリエンテーションや英語力のテストを行い、翌日から少人数に分かれて授業でした。基本的に大学内にある語学学校の建物で授業は行われました。この建物の中では英語だけしか話すことができないというルールがあり、日本人の友達と会話するときも英語でコミュニケーションをとることができました。このプログラムには日本人が多く参加していたため日本語を使って会話が簡単な状況でしたが、このルールのおかげでみんなが英語を使うように努力していました。このように実践的な英語力を身につけるという目標を達成するための最適な環境が整っていました。授業時間外である昼休みでも友達と英語で会話を交わすように意識していました。このプログラムに参加している人の中には、簡単な会話であればすらすらできる人もいました。このような人たちと会話をしているときは、その人が良く使っているフレーズや言い回しに注目しながら真似できる箇所はないかと探し、その後の会話に取り入れるようにしてい

ました。

大学での授業は一週間単位でテーマが決まっていました。1週目は家族、2週目はスポーツ、3週目は買い物、4週目はグローバルシティズンです。午前のクラス、午後のクラスでメンバーが変わり午後のクラスはプレゼンテーションがメインでした。

午前のクラスでは実践的な英語で会話する力につけることに重点を置いていたのではないかと思います。毎週の月曜日には必ず、先週の休日は何をしていて来週の休日は何をするつもりなのかを二人ペアになって会話する時間が設けられていました。ペアの人が言ったことを聞き取り、英語でその内容を先生に発表するのでリスニング力とスピーキング力のトレーニングになりました。先生は生徒の説明を聞いて文法的な間違いがあれば直してくれ、もう一度正しい英語で先生に説明するチャンスをくれました。またもっと適切な言い回しがあれば何度も教えてくれました。このようにクラス内で二人ペアになって活動が多かったので対人でのコミュニケーション能力が付きました。また、CA というブリティッシュコロンビアの大学生や大学院の学生さんが週に一度 4 人ほどクラスに来て、少人数のグループで CA さんに質問する時間もありました。会話の始まり、話の膨らませ方、話が盛り上がりってきたときの質問の仕方などはここで鍛えることができました。バンクーバーでおすすめのレストランを教えてもらったり、一押しの観光スポットを尋ねたり、カナダで有名なスポーツをきいたり、恋愛話までも話を広げることができ楽しく会話ができました。さらには教室を飛び出し大学内にいる人にインタビューもしました。初めは適切なインタビューの仕方を先生から教わることからはじまり、最終的には yes か no の単純な質問ではなく、what、where、who、which、when といった疑問詞を使いながらその理由まで質問できるレベルにまで到達しました。普段の先生の英語は私たちの英語力のレベルに合わせてゆっくり繰り返し話してくれるので理解できるのですが、インタビューの時の会話は速いので初めはなかなか聞き取れず、質問もぎこちなく酷いものでした。しかし、何度もインタビューを繰り返していくと徐々に聞き取れるようになっていくのを実感しました。もし、速すぎて聞き取れなかったとしても対応できるようになりました。発音に関しての授業もあり、L と R の発音練習もしました。L と R が入り交ざったセンテンスを発音しボイスメモに取って先生にそれを聞いてもらいアドバイスをしてもらいました。この L と R の発音の違いは以前から正しい発音の仕方がわからず発音できていなかったのでこの留学で習得できてよかったです。このようにスピーキング、リスニング力に力を入れていましたが、これだけではなく文法も学ぶことができました。日ごろ会話で使う文法から、よく耳にする英単語までカバーしてくれました。英単語に関しては朝に英単語を覚えているかのチェックや、単語を使ったチーム対抗ゲームもあったので毎日たくさんの単語を覚えることができました。

午後のクラスも単語、文法、リスニング、スピーキングを鍛えることができました。午前のクラスとの違いは最終的にプレゼンテーションをするということです。1週目は家系図をつくり自分の家族の人たちについて紹介しました。2週目はスポーツに関するインタビューを行い、棒グラフや円グラフにしてまとめて発表しました。3週目はグランビルアイランド

に足を運び、オリジナルのコマーシャル作りをしました。4週目は一人でみんなの前で自分にとっての大変なものについてのプレゼンをしました。私はカナダで買った紅茶のティーパックについてお話ししました。英語でのプレゼンテーションは初めてでとても緊張しました。初めの頃のプレゼンはかなり台本を見ながら途中で止まってしまうことが多かったのですが、最後の週のプレゼンはほぼ台本を見ずにボディーランゲージを使いながら発表できるようになりました。

このように午前も午後も生徒にとって興味がわくようなテーマで実践的な英語を学ぶことができました。アクティブで生徒主体の授業のおかげでたくさんのこと吸収することができました。

続いて「大学以外での学び」についてです。月曜日から木曜日までは16時頃まで、金曜日はお昼まで授業があり土日はフリーでした。様々な国の人々との交流を通して異文化を学び、視野を広げ人間的に成長したいという目的達成のためにたくさんの場所に足を運びました。ホストマザーやCAさんがおすすめしてくれた観光スポットやレストランやお買物に事前に計画を立てて行っていました。定員さんとの会話をすることも多かったので、その時によく交わす会話はできるようになりました。授業以外でも英語を使わないといけなかったので英語力の向上に役立ちました。自分の部屋で長時間いることなく自由にできる時間は外に出かけることが大事だと思いました。

3.目標達成度の自己評価

1つ目の目標である「実践的な英語を身に付ける」に関しては90%達成できたと思います。前述のとおり至る所で英語を使うことができ、英語を学ぶのに最適な環境で学ぶことができたと思います。日本の英語の授業ではなかなか習得できないリスニングとスピーキングを磨きました。残りの10%については留学に行く前に会話を使われやすいフレーズを学んでから、現地でそれを使うことができればもっと会話を楽しめたという心残りの10%です。留学に行けることが決定してから留学のために英語を勉強するぞという気持ちはあったのですが、留学に行く前の試験勉強に追われてしまい留学のための英語の勉強になかなか専念できませんでした。事前に勉強ができなかったのでカナダでの一ヶ月間は放課後家に帰ってから授業の復習や言いたかったのに英語で話せなかったことをその日のうちにどのように言えばよかったですのかフィードバックするようにしていました。後日、会話の中で復習が生きたことがあり英語力のスキルアップに繋がったと思いました。

2つ目の目標である「様々な国の人々との交流を通して異文化を学び、視野を広げ人間的に成長したい」に関しては80%です。自由に動くことができる時間は積極的に外に出かけていたのでカナダならではの多民族の良さを感じることができました。また、日本とカナダの違いを多く発見しカナダの良さだけでなく日本の良さについても改めて実感できました。また、大学のアクティビティでシアトルに一泊二日で行くことができたので大満足です。残りの20%はクラスメイトが全員日本人だったので、もっと他の国の人と英語を使って会

話をしてみたかったという 20%です。他のクラスと合同になったときに、朝鮮の人やメキシコの人とお話しする機会は貴重でした。

どちらもかなり高い達成度まで到達できたので今回のカナダ留学に満足しています。

4.今後の取り組み

この約一か月間を通して簡単な英語でも会話することができれば以前よりも多くの人々とお話しできることを再認識できました。英語の勉強に対するモチベーションアップに繋げることができたと思います。この留学で会話をすることが実践的な英語を身に付ける上で最も効果的だと思いました。今後の取り組みとしては英語を話すことができる人たちと会話をする機会を増やしていきたいと考えています。こうした機会を作るために大学では日本に来ている留学生に話しかけることから始めようと思います。

5.持って行って良かったもの、用意したがいらなかったもの、現地で使用したお小遣いの金額について

[持って行って良かったもの]

- ・小さめのお出かけ用バック
- ・ウエットティッシュ
- ・日本のお菓子
- ・水着
- ・運動用の靴
- ・洗濯用洗剤
- ・シャンプーとリンス
- ・ビニール袋
- ・日焼け止め
- ・モバイル充電器
- ・寒い時用の上着
- ・ハンガー
- ・帽子
- ・ドライヤー
- ・マスク

[用意したがいらなかったもの]

- ・スリッパ

[現地で使用したお小遣いの金額]

約 20 万円

- ・夜ごはんを外で食べることが多かった
 - ・シアトル旅行に参加
 - ・アメリカとカナダのアウトレットで買い物
- 主にこれらの3点にお金を多く使いました。

6.次年度以降の参加者へ、事前に準備、勉強しておくべきこと

- ・クレジットカードを2枚以上使えるようにしておくこと
- ・ホストマザーに持っていた方が良い物、お家のルールがあれば事前に聞いておくこと
- ・体調を崩したときのために日本で薬を買っておくこと
- ・会話でよく使うフレーズを頭に入れておくこと
- ・大学に登校する1日目はどこに何時に行けばいいのか事前にわかつておくこと

2019年度「カナダ短期留学報告書」

国際食料情報学部・国際農業開発学科・2年・山田未悠

◎目的：語学スキル向上のためだ。リーディングは自分のペースで読めて分からぬ單語があれば調べられるが、スピーキングとリスニングは国内ではなかなかできない单語に行き英語に慣れ親しむ機会を増やしたかった。また、外国の文化を知ることで自分の中の経験値が上がり色々な考え方や文化を受け入れられ、様々な視点で物事を見られるようになり自分の今の生き方や生活の仕方を改めて考える機会になると思ったから。

◎活動内容：私はこの目標語学向上のために積極的にホストファミリーに話しかけたり、授業内容を理解するために集中して先生の英語を聞いたりした。また、授業でインタビューに校外に出たときなどは積極的に質問をするなどアウトプットする時間を大切にした。学校でははじめにスピーキングのテストが行われ、自分のレベルにあったクラスに分かれる。大学内では日本語は禁止されていて英語オンリーとなっており、日本語を使うと注意される。日本にいる時よりも英語を耳にする機会が多くなるため、リスニング力は向上すると思うがスピーキングは自分が話さないとあまり向上しないと思った。また、ボキャブラリーが多いと会話も広がり相槌のバリエーションも増えもっとコミュニケーションが取れたと思った。学校の授業は午前と午後で先生が替わり色々なタイプの先生の授業を受けることができる。そして、週ごとにトピックが変わりトピックに沿って1週間授業を進めていく。1週目はFamilyについて勉強した。Family Treeを作成しミニプレゼンテーションをした。2週目はSportsについて勉強した。go, do, playの使い分けや外に出てインタビューをし、その結果を基にグラフを作成し班に分かれて発表した。3週目はShoppingについて勉強した。Granville Islandにマーケティング調査に行き、調査した店を一つ選びコマーシャルを作った。自分たちでロゴやスローガン、キャッチコピーなどを考え音楽をつけて動画に撮り鑑賞した。その後、どのような店なのかを話し合ったり質問したりした。4週目はGlobal Citizenについて勉強した。自分の大切なものについてプレゼンテーションしたり、Canada Placeに行きカナダの歴史やその場所のことについて勉強したりした。この1ヶ月間UBCでプログラムに参加して感じたことは、日本のように受け身の授業ではないため、自主的に発言しないと出席はしているが授業に参加しているという実感は得られないということだ。8月の初旬は緊張や恥ずかしさもありなかなか授業中に発言することはできなかつたがだんだんと慣れてきて自分から発言するようになった。発言することのメリットは自分の意見を伝えられる事だが、文章が上手く組み立てられていないときに先生が正しい文章を言ってくれて訂正してくれることだと思った。曖昧な状態で終わらせないことが英語を上達させる事につながると考える。移動するときなども日本人で固まってしまうとどうしても日本語になってしまふから先生に日本でどのような勉強をしているのか、UBCでの感想を言つたりして会話をするように心がけた。先生はとても優しく微笑みながら聞いてくれ、英語が出てこないで困っていると先生から言ってくれて話を続けようしてくれる。また、レベルの高いクラスの友達を作る事で英会話の時間が増えるし、分からぬことが気軽に聞けて非常に勉強になる。私のクラスは日本の学校と大して変わらない雰囲気のクラスだったが、別のクラスとの合同授業になると自分のクラスとは全く雰囲気が違い、日本人のクラスなのに外国人のようなノリでこれが外国のクラスなのかと感じた。みんな自分の思ったことを自由に発言したり、ディスカッションしたりして意見交換をしていた。英語が自由に操れるようになると楽しんだという事をしみじみと感じた。私はまだ、そのレベルに全然達していないことを痛感しましたその人たちに刺激をもらい英語をもっと頑張らなくてはいけないと思った。

学校生活だけでなく、買い物でスーパー・マーケットに行くときは学校とは違って話すスピードが早くなり聞き取るのが難しくなるが適当に返事をするのではなく分からなかつた場合にはもう一度聞くことが大切だと思った。日本のような“どちらでもいい”という

曖昧な表現は好まれていないのが良く分かった。分かっているのか分かっていないのか選択肢は2つだと感じた。曖昧な表現をしてメリットはないと感じたためはっきり伝えることにしたら、コミュニケーションも増え良かった。休日はバンクーバーで有名な場所に行くことができ、有意義な時間を過ごせた。また、ホストファミリーはイタリア系のカナダ人でありパスタが主食であった家ではイタリアの文化を知ることができ、外ではカナダの文化に触れることができ一度に2カ国の食文化を知ることができ良かった。私が特に日本との違いを感じたのはレストランである。レストランではチップの制度があるためウェイトレスの対応は非常に良く、水を足しに来るたびに“味はどう?”や“楽しんでる?”などと声をかけてくれる。そして、支払いをするときに多めに出すと日本ではおつりをもらうのは当たり前だが“おつりはどうしますか?”と聞かれることに日本との違いを感じた。日本にはチップという習慣がないためチップを考えるのは難しかった。また、東京では電車や地下鉄が発達しているが、バンクーバーでは車やバスが主な交通手段になっていた。バスでは乗車するときと下車するときに運転手に“Hi.”や“Thank you.”と言う習慣があることに驚いた。私たちもその習慣に従って挨拶をした。カナダの人たちは初対面の人とでもフレンドリーに会話をしていて日本とは違うと感じた。遊園地でも違いを感じた。日本の遊園地は安全性を重視しているが、カナダの遊園地はスリルを重視しているように感じた。ジェットコースターの安全バーは安全バーの役割を果たしておらず急降下するときや遠心力がかかるカーブでは立ち上がる状態になっていた。私は絶叫系アトラクションがとても好きなため満足することができた。日本とカナダでは様々な文化の違いがあり、国民性も大きく違っていた。日本人は基本的にシャイでありアイコンタクトやスキンシップ、ボディーランゲージを取ることはあまりないが、カナダの人から見るとアイコンタクトを取らない人は自信がなさげに見え、また信用されていない・信用できないというようになると話していた。授業中に黙り込むことが多々ありUBCの先生方からは“Don't be shy.”と何度も言われた。そして、シャイになると自分にとって何の意味もないということも何度も言われた。失敗することは恥ずかしいことではなく自分の成長のために必要になり、また周りの人間にもプラスの影響を与えると話を聞かされたときにその通りだと思った。当初の目標でもある語学スキル向上に大きく関わった。

◎目標の達成度：目標達成度は75%である。理由は学校では英語を使うが、登下校中の会話や家での日本人同士のコミュニケーションは日本語だったからだ。私のホームステイ先には日本人留学生が私を含め3人おり、いつも3人で行動していた。家で日本語を使うとホストマザーから私たちは日本語が分からないからあまり使わないで。と言われた。英語を勉強しにカナダに行ったのに日本語を使ってしまうと意味がないと思った。しかし、英語では自分の伝えたいことがなかなかスムーズに伝えられず、ボキャブラリーがないため最終的には日本語で説明する機会が多々あった。学校では授業中は英語を使うことを意識したが休み時間になるとついつい日本語で会話をしていた。休み時間の会話で英語を使ってもその文法が正しいのかは分からぬままだったが、先生が私たちの会話を聞いていけるときは日本人特有の日本語英語になっていると指摘してくれて、正しい英文法を教えてくれた。休日に出かけたときは英語の説明文をしっかり読み理解することを意識した。博物館や水族館でもただ見るのではなく展示物の説明文を読んでどういったものなのかを考えながら見て回った。分からない場合には友達に聞いて分からないままにしないようにした。語学スキル向上の目的で留学をしたが、友達を作る事も大事だと考えていた。留学はたくさんの大学の生徒が参加し、自分の大学以外の友達を作る良い機会だ。みんな同じ目的を持ってプログラムに参加しているため英語に対する意識が高く切磋琢磨できる。帰国してからも共通のプログラムを達成した者同士いい関係を築けたら良いと考えている。カナダだけで終わらせるのではなく出会った縁を途切れさせないことも大切であると考える。今回の留学で得られたものは非常に多く、参加して良かった心から思っている。

◎今後の取組み：日本にもたくさんの外国人観光客や日本に在住する外国人が増えていく。国内で英語を使う機会も増えるため英語はコミュニケーションを取るために本当に大切な言語であると考える。だから、日本でも積極的に英語を使う機会を増やしもっと英語を自由に扱えるようになりたい。そのためにも、学内にいる留学生に話しかけたり英語の先生に質問したり英語で話しかけたりしようと考えている。

◎持って行って良かったもの：

- ・シャンプー、リンス、ボディーソープ、洗顔、化粧水
- ・洗濯ネット
- ・歯ブラシセット
- ・ビニール袋
- ・電子辞書

◎持って行ったが使わなかったもの：

- ・サングラス

◎持って行ったお小遣い：

- ・現金日本円で7万円くらい
- ・カナダで2万円換金した
- ・クレジットカードは持つていいかなかつた

◎事前にやっておくべき準備：

- ・ボキャブラリーを増やす
- ・カナダの気温について調べる
- ・自分の学部、学科について英語で説明できるようにしておく
- ・自分の家族についても説明できるようにしておく
- ・家族の写真や部活、サークルの写真を用意する
- ・クレジットカード（VISA、マスターカード）の準備

2019年度「カナダ 短期留学報告書」

生命科学部・バイオサイエンス学科・3学年・山梨翔太

【当初の目的】

私は小さい頃から不思議に思い、私の好奇心を掻き立ててきた思想がある。それは、多民族、多文化主義だ。日本に生まれ育ってきた私にとってその思想は未知の領域であり、とても摩訶不思議に感じていた。なぜ他の文化を持つ人々が集結しているのか、なぜ同じ人間なのに当初は差別が横行し上手くいかなかったのか、なぜアメリカやカナダは最終的には人種のるっぽと言われるほど上手く行くようになったのか。そのような疑問を図書館で本を借りて調べたり、先生や親に聞いてみたり、ニュースをチェックしたりして調べてきたが、その実際をこの目で確認したく今回志望した。

また、英語力向上も志望した理由の一つだ。今まで私が受けた英語教育は主にリーディング、リスニング、ライティングだった。その為、もし国際的な場で外国の方と討論することになった時、果たして自分は自分自身の考えを相手に十分に伝えることができるのかとても不安に感じた。海外留学を通じて、その不安要素であるスピーキングを得意なものに変えることができるのでと考えた。

そして、住みやすい都市ランキングで毎回上位に位置し続けるバンクーバーに実際に足を運んでその街の空気を体感し、なぜここまでバンクーバーは評価されているのかを知るのも留学した目的の一つだ。

【目的達成のために現地で活動した内容】

上に記した通り今回カナダに留学した目的は3つある。1つ目は、多民族、多文化主義について知ること。2つ目は、英語力の向上。3つ目は、バンクーバーについて知ることだ。この目的を達成するためにどのような活動を行ったのか順に説明して行きたい。

まず最初に多民族、多文化主義を知るためにやってきたことを説明したい。カナダやアメリカは、知っている通り人種のるっぽや人種のサラダボールと言われているほど多民族や多文化を受け入れている。それを可能にしているものを探るために私が行ったことは主に2つある。

1つ目はどのようなリスペクトがそこにあるかを知ることだ。これは授業で学んだ事なのだが、他人を不用意に傷つけないためにあらゆる言葉を規制し、代わりの言葉を使い他者に対してリスペクトを表している。例えば、you people がこれに当たる。You people は一見すると「みなさん」のような呼びかけの言葉に見えるが実は違う。歴史的な背景により you people は African american に対する蔑称とされている。代わりに使う言

葉が folks や everyone だ。また、人種に関する言葉だけでなく性的マイノリティに対しても多様な言葉のリスペクトがある。結婚しているかどうかを聞きたい時、あなたはどのように尋ねるだろうか。Do you have your wife/husband? このように尋ねる人も多いと思うが、これは失礼な表現に値する。なぜなら、この表現は LGBT の方々のことを考えていないからだ。代わりに Do you have your partner? と表現するのが適切らしい。それだけでなく policeman は police officer に businessman は business person のようにあらゆる言葉が変化してきている。

言葉だけでなく日常生活でも他者に対するリスペクトが散見される。例えば、バスに乗った際必ず見るのが、ドライバーに対して降車するときに thank you と声をかける人々だ。日本ではそのような光景を見たことがなかったのではじめは驚いたが、感謝を表すとしてもいい文化に感じ、わたしも真似して thank you, driver とバスから降りる際、いうようになつた。カナダではこのように他者に対して感謝を述べることが多いように感じた。店で客が商品を受け取る際にいう言葉も thank you であった。それだけでなく、先生たちも事あるごとに thank you と言っていたことを覚えている。実際にホストマザーに私は、sorry ではなく thank you といえと怒られた。他文化や他民族に寛容なのは日頃から感謝の念を大事にしているのが 1 つの要因ではないかと感じた。

2 つ目は過去の暗い歴史について目を向けるということだ。カナダの現状があるのは、過去に起きたあらゆる差別を乗り越えたおかげであるということはいうまでもない。アフリカ系アメリカ人、カナダ人の多くはルーツを辿れば奴隸制によりアフリカから連れてこられた人であり、奴隸解放以降も様々な差別があった。意味もなく暴力を振るわれたり、肌が黒いというだけで就職できなかつたり、アフリカ系アメリカ人、カナダ人禁止のエリアを設けたりと、凄惨な差別が過去にはあった。そのような過去をカナダの人々は隠すのではなく、むしろ能動的に伝えていた。「過去に起きてしまった事は仕方ない、大切なのはその過去を適切に知り、二度とそのような出来事を起こさない事だ。」私の担当の先生はそう講義の中で語っていた。カナダには差別の過去と向き合い、次に繋げるという社会的な雰囲気があるから様々な文化、民族と調和できているのだろう。

次に英語力向上のために行ったことを説明したい。私が英語力を向上させるために行つた事は、主に「積極的に話す、質問する」と「反省をする」というものだ。

「積極的に話す、質問する」というのは、シャイな私にとって簡単なことではなかつた。本当にこの表現であつてゐるのか、間違えたら何か言われはしないか、そんな不安が発言する際、いつも付きまとつていたのだ。しかし、ホストマザーに「Your English is perfect」と言われて以来、積極的に発言できるようになった。例えば、わからぬ事は授業中もしくは授業後に必ず質問したり、週末何をしたかを特に聞かれてもいないので先生やホストマザーに話して見たりと様々な行動を能動的に取れるようになった。それらの行動により多くの恩恵を受けた。その一つがコミュニケーションの頻度が増えたということだ。私が発言することにより、当然だがそれらに関する質問がくる。それについて私が

答え、どう思うか尋ねる。そしてその返答について私が反応し、意見を述べる。というようになつてから私のスピーチング力は格段に違うと確信を持って言える。

また、「反省する」という行為が私の英語力を向上させた。当然のことだが、発言すればするほどミスというものは出てきてしまう。私はそのミスをミスとして終わらせるのではなく、次につなげて行きたいと感じていた。どのように次につなげたか、例をあげたい。ディスカッションをする機会が授業の中で設けられた。その授業の中で私は「それは、あらゆる問題が発生する可能性がある」と発言したかったのだが、その英語のフレーズがなかなか出てこなく、その場しのぎで単語を羅列して相手に伝えるということがあった。この事は私にとって非常に悔しく、授業後すぐにどのように言えばよかったです「反省」を行った。私が思いついたその答えは「there are possibilities that it happens a lot of problems」だった。これにより、「～する可能性」という表現を定型分として使えるようになった。「発言」をし誤りを見つけ、「反省」をする。このようなサイクルを構築することで表現の多様化と文章を思いつくスピードが格段に向上したように思う。

最後にバンクーバーという街を知るために行ったことを記していく。バンクーバーを知るために行った事はただ一つ「とりあえず行ってみる」という事だ。実際、私は様々な場所に足を運んだ。ダウンタウンはもちろんのこと、ビーチ、カジノ、博物館、図書館、カナダで有名な公園、そして中華街。本当にいろいろなところに行った。特に印象的だった3つの場所について記していく。

1つ目はスタンリーパークだ。ここはカナダでも有名な公園なのだが、日本の公園の規模で考えてはいけない。その公園はとても広く自転車で一周するのに一時間半程度かかった。この公園にはサッカーの試合をいくつも開催できるほどの広大な広場や水族館そして数多の湖がある。その広さと景色の良さには息を飲むものがあった。それだけでなく、よく催しも行われていた。印象的だったのがナイトムービーだ。ナイトムービーは夜に野外で映画を放映するというもので多くの人がその催しに参加する。私が行ったときは、ハリー・ポッターが放映されていた。他にも様々なイベントがあったのでぜひ、スタンリーパークに足を運んで見てほしい。

2つ目は、ビーチだ。バンクーバーは港町ということだけあって、様々なビーチが存在していた。私が行ったのはサンセットビーチ、キツラノビーチ、ヌーデストビーチ、イングリッシュベイビーチだ。サンセットビーチはその名の通り「夕日」がとても綺麗で、キツラノビーチは日本でいう湘南の雰囲気、ヌーデストビーチは割愛、イングリッシュベイビーチはとても落ち着いた空気が特徴的だった。

3つ目は、中華街だ。中華街は中国とカナダの雰囲気を同時に味わうにはうってつけの場所だが、一人ではいかないでほしい。中華街の中心地から少し離れると明らかに人から

盗んだものが売られている闇市が開かれていたり、道端で独り言を言いながら寝ている人がいたり、日本では嗅いだことのないような匂い（おそらく大麻の匂い）が充満していたりとお世辞にも治安がいいとは言えなかつた。しかし、そこには中華風の綺麗な庭園、美味しい中華料理屋があるので足を運ぶことをオススメする。（繰り返しになるが絶対に一人ではいかないこと。）

【目標達成の自己評価】

私がこの留学で達成しようとしていた目標は全てやり遂げたので、自己評価は 100 点中 90 点だ。10 点の減点理由を強いていうなら財布をなくしたことくらいだろう。

【今後の取り組み】

自分がバンクーバーで経験したことをもとにどのような国際人が求められているかをよく考え、英語の技能をしっかり向上させ、将来につなげていきたい。

【持って行ってよかったもの】

- ・サンダル

カナダは靴社会なのではきぬぎが簡単なサンダルはとても重宝した。

- ・モバイルバッテリー

使っていいコンセントが一つしかなかったので自分が出かけている間に充電し、夜使用していた。タコ足配線があるなら持ってきててもいいだろう。

- ・Wi-Fi

道に迷った時は便利

【持って行ったほうがよかったもの】

- ・クレジットカード三枚

二枚じゃなく三枚だと安心。

【持っていかなくていいもの】

- ・漫画

読む暇ない

【事前に準備、勉強しておくべきこと】

- ・英語

英語は得意で損する事はない

- ・お金

バイト頑張れ！

2019年度「カナダ 短期留学報告書」

応用生物科学部・食品安全健康学科・2年・杉山千奈

私は、今回2019年度8月5日から31日にかけての約4週間、カナダのブリティッシュコロンビア州バンクーバーのブリティッシュコロンビア大学（以下UBC）の短期留学プログラムに参加してきました。UBC内のELIという語学学校に通い、週ごとに違うテーマでディスカッションやプレゼンテーションを行いました。その中で、リスニングやスピーキングなどの力の向上を図りました。また、月曜日から金曜日の放課後や土日は友達やホストファミリーといろいろな観光スポットへ行き、楽しく過ごしました。

私が留学へ行きたいと最初に思ったのは高校2年生の時でした。高校にもUBCの2週間のプログラムがあり、友達に誘われて説明会へ行きました。そこで前年に行った先輩方の英語のスキルの向上や、多文化のカナダの魅力についてなどの話を聞いて、留学へ行きたいと思うようになりました。

大学へ進学し、UBCのプログラムを知った時、すぐに申し込もうと決意しました。そのときに説明をしてくださった先輩に、留学へ向けて一年間英語のスキルを上げてから、二年生で行くことを勧められ、一年生だった私は二年生になってから申し込もうと思いました。

【当初の目的】

今回の留学の目的は、大きく分けて2つです。1つ目は英語のスキルの向上です。私は高校生のころから英語がとても苦手で、特にリスニングに苦手意識がありました。また、アルバイトをしているときに海外から来たお客様に話しかけられても、何が言いたいのかわからず、返答できないことがとてもどかしく感じていました。私のアルバイト先はオリンピック会場に近く、2020年には海外からくるお客様が多くなります。人とお話しするのが好きな私は、そのようなお客様としっかりコミュニケーションがとれるようになりたいと思いました。

2つ目は、異文化を学ぶということです。私は現在、食品について大学で学んでいます。将来は日本の食品メーカーに就職し、日本以外の国に日本の食品技術や安全性などを発信していきたいと考えています。そこで、カナダという多文化の国へ行きいろいろ国の食文化を見てきたいと思っていました。ホームステイを通して家庭の食文化や、スーパー・レストランなどでどのような食品の取り扱っているのかなどに興味がありました。

【目的達成のための取り組み】

英語のスキル向上への取り組みは、主に会話の量をできるだけ増やすことです。私はコミュニケーション能力が高く、人見知りもしないタイプで、カナダではいろんな人に話し

かけていました。最初の1週間は放課後家に帰り、庭でホストファザーとお話ししたり、ディナーのあとはホストファミリーやルームメイトといろいろなゲームをしたりしていました。そこで日常生活で使う簡単な英語を学びました。2週目からは毎日のように放課後はバンクーバーの町を散策し、迷子になったときは現地の人に話しかけ道を聞いたり、お店の中では店員さんに人気商品を聞いたりと、常に英語を意識していました。カナダに住む方々は親切な方ばかりで、話しかけるとみんな笑顔でなんでも答えてくれました。1つのことを聞くと、いろんな話をプラスして10のことを話してくださる方が多かったです。そのような感じでリスニングの強化を試みました。

食文化を知るという目的への取り組みは、スーパーにたくさん行ったり、ホストファミリーにカナダの食文化について質問したり、友達のホストファミリーのご飯について話を聞いたりしました。特にスーパーへは週に何回も行きました。家の近くのスーパーや、ホストファミリーに車で家から少し遠いスーパーへや、どこか観光に行くときもよくスーパーなどに行っていました。カナダに行く前から海外の商品は大きいだろうなとは思っていましたが、その通りどの商品もとても大きかったです。また、驚いたことは、キットカットやポッキーなどの日本のお菓子がどのお店にもたくさん置いてあったことです。抹茶味のお菓子もあり、日本の食べ物があることはとてもうれしかったです。スーパーの店員さんや道端で会った現地の方々で、日本食や日本のお菓子などおいしいと思ってくれている方はとても多かったと感じました。ただ、日本に来たことがある方は皆さん口をそろえて、日本で食べた日本食のほうがおいしかったと言っていました。次に家庭の食文化についてですが、多くの家が朝はパンやシリアル、お昼は前日の夜ご飯の残りやサンドイッチでした。朝とお昼はどの家も同じような感じでした。しかし、夜はホストファミリーの文化によりました。私のホストファミリーは生糀のカナディアンだったので夜はアジア系の食べ物はあまりでなかったです。パスタやピザなどもあれば、マッシュポテトが主食の日もあつたり、タコスやとても大きいステーキ、ハンバーガー、ラザニアもありました。味はトマトベースなものが多く、日本人が好む塩やしょうゆを使った食べ物は少なかったです。予想通り日本食に比べて、味の濃いものが多くたのと、甘い食べ物を好む人が多いです。

【目的に対しての自己評価】

自分から積極的に行動できたので満足しています。ただ、1つ後悔しているのが授業の復習についてです。最初の予定だと、朝早く起きて学校へ行き前日の授業の復習をしたかったのですが、私の家にはクワイエットタイムというものがあり、朝は7時までは音を立てることを禁止されていたので目覚ましがかけられず、復習することができませんでした。夜も早く就寝しなければならなかったので、復習する時間が足りなかつたと思いました。

【今後の取り組み】

主に私が決めていることは、トイックへ向けてリスニングの継続、英語の本や洋画などたくさん見るということです。その中でも特にリスニングを頑張りたいと思います。リスニングの強化は毎日耳で英語を聞く習慣を途切らせないことが大切なため、音楽やYouTubeの英会話などを積極的に聞きたいです。また私がカナダで気づいたことは、会話ならではの単語の省略の難しさです。日本語でもそうですが、よく文章を省略することがあります。UBCの私が参加したプログラムはほとんどが日本人だったので、大学の先生は日本人の生徒に向けて、授業では省略せずに英語で話してくれる方が多かったです、道端で会う人や、ホームステイ先の子供達はよく文章を省略して私に伝えてきました。理解するのはやはり難しく、会話が途切れてしまったことが多々ありました。わからない時に、もう一度簡単な英語でお願いしますと伝えると、文法通りの文章を言ってください、どんなことが言いたかったのか分かりました。その状況から、映画をもっと見るべきだなと思いました。洋画で英語を耳で聞き、日本語の意味を目で見て知ったり、邦画を英語の字幕で見て、会話調の日本語がどのような英語になるのかを知ったりと、映画は普段の会話に近い英語を学べると私のUBCの先生も言っていました。これまで、洋画を日本語字幕で見たことはありますが、邦画を英語の字幕で見ることはなかったので、先生のアドバイス通り、見てみようと思います。

【持って行ってよかったもの、持つていけばよかったもの】

持って行ってよかったものは日本食、お茶、ウェットティッシュです。バンクーバーには日本食やお茶など取り扱っているお店も多くありました。しかし、値段が高いので、日本からお湯を入れるとできる味噌汁や、電子レンジでできるサトウのご飯や、水などで簡単に作れるお茶の粉末などを持っていくと、日本食などが恋しくなった時に対応できるかなと思いました。また、ウェットティッシュは必需品です。カナダではレストランなどでウェットティッシュがでなかつたです。持ち歩けるサイズのウェットティッシュを多めに持つて行くことをお勧めします。

持つて行くべきだなと思ったものは、箱ティッシュやサングラスや水筒です。私の家にはティッシュという文化がなかったので、とても不便でした。ちなみに、私は部屋用に箱ティッシュを持ってきていたルームメイトにいつももらっていました。また、カナダはとても日差しが強いので帽子だけでなく、サングラスは必須だなと思いました。バンクーバーは水道水が飲めるので、水筒に水などを入れて学校などに持つていくと、飲料を買うお金が削減できます。またバンクーバー自体、エコを意識している人が多く、マイボトルを持っている人がとてもたくさんいました。

【事前に勉強しておくべきこと】

英単語の知識だと思います。私は英単語をなるべく多く覚え、カナダでホストファミリ

一や先生に発音を教えてもらっていました。会話や授業には多くの単語が飛び交うのでわからない単語ばかりだと、授業が苦労すると思います。

【留学が決まったみなさんへ】

今回の留学で、英語を継続していくことの大切さを改めて学びました。そして、勉強として英語を学ぶのではなく、生活の一部として英語を組み込むことで自然に英語が身につきます。普段まったく英語と接点がない私は海外から来た方と話すときに、カナダに行く前はただつらつらと英単語を並べて話すことしかできませんでした。しかし、カナダでは常に文章を意識して話すようになっていました。私はこう思う。私はこうしたい。と英語で伝えるのはとても重要です。ぜひ、たくさんの人と話してください。私は英語がとても苦手ですが、誰よりも現地の方とお話ができたと思っています。それは、日本では聞けない英語ならではの言葉遣いを学べるいい機会でした。いろんな人に話しかけるうちに、会話調の英語がいつのまにか身につきます。

また、わからない英語を聞き返すことを恐れないでください。私は最初、英語が理解できなかった時になんとなく笑ってごまかしていました。ある日、ホストファザーの英語に対してわからなかったのでもう一度簡単な英語で言ってほしいと頼んだ時、とても褒められました。日本人は英語がわからないとき、笑ってばかりで話がつまらないと言っていました。わからない時はわからないと意思表示することで、現地の方々はまた教えてくださいます。それによって、わからなかった英単語や英文の意味も知れ、しっかりととした文章で返せるので会話になります。楽しい会話から学べることはたくさんあるので、是非、恐れず自分の気持ちを伝えてください。みなさんも成長できることを心より応援しています。頑張ってください！！

2019 年度短期留学報告書

生命科学部・分子生命化学科・2年・池田里菜

私がこの留学プログラムに参加したいと思ったきっかけは、父の仕事仲間のアメリカ人夫婦を自宅に招いて交流したことがきっかけです。色々と聞いてみたいことなど話したいことは沢山あったのですが、どう話したら良いのか分からず、全く会話をすることができませんでした。普段の生活の中でなかなか英語で話す環境になることがなかったので新しいチャレンジをして英語力の向上、そして今までの自分の消極的な性格を変えたいと思いこのホームステイの留学プログラムに応募しました。私は今回の留学が初めての経験で、1ヶ月の短期留学ではあります

したが、私にとってはとても長く感じるもので不安な気持ちもとても大きかったです。

4週間の UBC での授業は週ごとにテーマが決まっており英語でそのテーマについて勉強していくというものでした。留学初日、バンクーバーに到着後に他大学の人たちと合流し、ホームステイ先に送迎してもらいました。到着した 8/5 はカナダの休日だった為、その日はホームステイ先で過ごして終わりました。そして次の日から学校が始まりました。カナダを訪れるのは初めてだったので地理感覚や交通機関の事も全く分からぬ状態の中、ホストファミリーに教えてもらった情報を頼りに大学へ向かいました。移動の際にはコンパスカードという IC カードを使いました。私はホストファミリーのカードを 1 ヶ月間貸してもらいましたが、ドラッグストアなどで買うことができます。初日のオリエンテーションの後はクラス分けテストがありました。内容は先生からの質問に対して 1 分間回答する形式とグループディスカッションしているところを先生が見て評価をつける形式でした。このプログラムには沢山の大学が参加していてほとんどが英語や国際系を専攻している人たちでした。そのため英語を話せる英会話にもなれている人たちが多いです。私は文法やある程度の会話のフレーズなどをカナダに来る前に勉強してきましたが、実際に英会話の勉強をしてこなかったので英会話の練習をしておくと良いと思いました。次の日からはクラス分けされたクラスで通常授業が行われました。午前授業と午後授業があり、金曜日は午前授業のみでした。それぞれクラスメイトも変わります。クラスの人数は 15, 6 人です。第 1 週のテーマは「communication」でした。ジェンダーについてディスカッションしたり、他クラスの人と 2 分間途切れずに会話をし続けなければいけないゲームなどをしました。最初の週は伝えたくてもうまく説明できず、もどかしい気持ちになることが多く少し辛かったです。第 2 週目のテーマは「sports」でした。クラスの中でいくつかのグループに分かれてスポーツに関する施設に行きインタビューをしポスターを作り、後日発表をしました。初めて聞くスポーツのルールを英語で他のクラスの人に説明して一緒にやってみるという活動もありました。全くルールを知らない人に一から英語でルールを説明するのはなかなか難しかったですが、終わった後の達成感はとても大きかったです。この授業の後にはクラスメ

イトとの距離も縮まった気がしました。第3週目は「consumerism」でした。経済的な事柄からショッピングなど身近な事柄まで色々なテーマで話し合いやUBCの学生にインタビューをしたりしました。金曜日にはエコツーリズムにちなんで大学内にあるボタニカルガーデンの吊り橋を体験しに行きました。実際に体験をする事で興味、関心が深まったと思います。第4週目は「global citizen」でした。難民問題や人種差別などとても難しい話題が多く、英語でディスカッションするのはとても大変でした。人類の起源について学んだ時は人類学博物館へ行きました。この博物館もUBC内にあります。トーテムポールなど沢山の展示物があり、カナダの歴史について学ぶことができました。UBCキャンパスは広大で植物園、博物館、庭園などたくさんの施設が整っており、勉強するのにはとても良い環境でした。

放課後はダウンタウンへ遊びに行ったり先生や友達オススメのレストランへご飯を食べに行ったりしました。毎日とても楽しく充実していてバンクーバーを満喫できました。大学のアクティビティに参加するのも大学のボランティアの方々が引率してくれるので安心して楽しめると思います。今年はシアトルへ行く一泊2日のツアーがあり参加しました。

私のホストファミリーは中華系カナディアンでした。私の他に同じプログラムの日本人の大学生と中国人の高校生がいました。ホストファミリーはとても親切でホームルールも特に厳しい事はなく快適に過ごすことができました。しかし少し残念な点を挙げるとなれば家族との交流が少なかった事です。ホストファザーは仕事で夜まで帰ってこないのでご飯は家族全員ではなく日本人ルームメイトとホストマザーの3人でいつも食べました。ご飯を食べ終わった人から順に片付けて自分の部屋に戻るシステムだったので全然会話をすることはありませんでした。リビングのような場所もなかったのでご飯以外の時間は部屋にこもるしかありませんでした。その点に関しては少し寂しかったです。日本食を振る舞いたいと思い練習もしてきましたがその機会もありませんでした。もう少しホストファミリーとの団欒の時間が欲しかったです。もう1つはホストファミリーが英語をあまり話せなかっただけです。家族での会話は基本中国語で私たちと話す時だけ英語を使ってくれているようでした。そのため英語が聞き取りづらかったり単語での会話という感じでした。私はホームステイを通じて英語力を向上できたらいいなと思っていたので残念でした。しかし、最後には温かい言葉をかけてもらいプレゼントもいただきました。私の想像していたホームステイとは違いましたが、色々な家庭があることは事前に学んで理解していたので、しっかりと自分の環境を受け入れ、出来る限りのコミュニケーションをとる努力をしようと頑張りました。ご飯は基本的に朝ごはんは自分たちで食べて行く方式でした。お昼ご飯はお弁当を作ってくれて、夜ご飯もホストマザーが毎日作ってくれました。主食はお米で中華料理でした。しかし私が知っている中華料理とは違い、中国の家庭料理のような今まで食べたことのない料理ばかりだったのでここでも貴重な経験をすることができました。

約1ヶ月間カナダで生活した中で感じたことは、カナダは環境問題への意識が高いことです。学校、ダウンタウン、公園、どこを見てもゴミ箱がいたるところに設置されていました。そして分別ができるように何種類かに分かれているゴミ箱が置かれていました。またバンクーバー

で水族館を訪れたのですが、ただ魚が展示されているだけではなく、海に捨てられているゴミの展示などもあり環境問題についても学ぶことができました。そして道には電気自動車の充電用のポールを数多く見られました。なかなか見ることのない新鮮な光景でした。また、バスは車椅子の人でも楽に乗降できるスロープが自動で出てきたり車椅子のままでも乗れる十分なスペースが設けられていました。いろいろな施設を訪れてみてもスロープやエレベーターがあり、カナダはバリアフリー設備も充実していることが分かりました。私がカナダにきて驚いたことは信号のない横断歩道を渡ろうとした時、結構大きな道だとしても車が止まってくれることです。日本ではほとんど見られないことだったのでとても驚きました。バスが特別運行になっていて普段使うバス停にバスが来なかつた時も近くを通りかかった方が声をかけて教えてください、カナダの方々の優しさを感じました。そしてバンクーバーは大都市でありながら自然が豊かです。中心部のダウンタウンのすぐ隣には国立公園のスタンレーパークがあつたり、海が綺麗なビーチや庭園などがたくさんありました。週末にビクトリアへも行きました

が、街並みの美しさに感動しました。

私たちは色々な国籍の留学生がいる校舎で勉強をしてきました。そのため校舎内では授業中はもちろんのこと休み時間でも英語以外禁止でした。これはとても大変で話したいことはあるのにどう言つたらいいのか分からずクラスメイトとも会話がなかなかできないことが多くありました。しかしこのルールのおかげで語彙や会話の知識が増えました。八月の後半になってくるとクラスメイトとも休憩時間の雑談も英語ができるようになり、確実に留学前の自分と比べて英語力がついたことを感じました。

この留学を通して英語を話すことへの抵抗がなくなったような気がします。UBCでの授業は日本のように先生の話を一方的に聞く形式ではなく常にディスカッションやキャンパス内でインタビューをしプレゼンをするなど自分たちで行うものがほとんどでした。必然的に自分たちで考え自分の意見を述べ話し合う環境にあったのでコミュニケーション能力が付いたと思います。また、クラスメイトやルームメイトなど沢山の人出会い、帰国後も連絡を取り合えるような友達もできました。日本に帰ってからも引き続き英語の勉強をしていきたいと思います。また、大学の授業でTOEICを受ける機会があるので頑張りたいです。

○持っていくと良いものなど

- ・パソコン、タブレットなどの電子機器(クラスによっては授業のプレゼンでパワーポイントを作る事もあるので持っていると便利)
- ・防寒着(8月とはいえ雨が降ると気温がとても低くなります。厚手のパーカーがちょうど良い気候の日もあったので対策できるように色々な服を持っていくと良いと思う。)
- ・サングラス、帽子(日差しがとても強いです)
- ・エコバックなど袋(基本袋をくれないのでスーパーに買い物に行く時などあると便利)
- ・学校のアクティビティで週末のシアトルツアーパーに参加しましたが、バスで行くため特別アメリカのビザを取得しておく必要はありませんでした。

- ・出国前5万円を換金し、その他はクレジットカードを使用しました。

2019 年度「カナダ短期留学報告書」

生命科学部・分子微生物学科・1 学年・竹内歩

1. 当初の目的を簡潔に

私が短期留学をしたいと思った理由は、海外の文化を身近に感じながら英語力を上げたいということです。その中でもカナダを選んだ理由は北米に行ってみたいと思っていましたこととホームステイすることで観光では経験することができない、現地の人の生活を直接肌で感じることができると思ったからです。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

一日目、9 時間のフライトの後、現地についてから各自のホームステイ先へ行きました。私のホームステイ先は私のほかに同じプログラム参加者の日本人の子もいました。私たちは各自の部屋に荷物を置いた後、ホストファザーがドライブに連れて行ってくれました。その時、彼はたくさんのこと私たちに話してくれたのですが、ほぼ聞き取れず相槌を打つばかりでした。

二日目、クラス替えテストが行われました。テストと言っても生徒がペアになって話しているのを先生が横で聞いて判断している感じでした。計 3 回のテストが行われ、3 回ともメンバーは異なっていました。テストと聞いて最初は怖かったのですが、怖がるようなものではなく楽しんでやるようなものでした。外に出て歩きながら名前や大学など簡単な英語で会話をしました。その間、先生は私たちの会話を聞いていません。

三日目、クラスが決まりそれぞれの教室に分かれました。クラスは AM クラスと PM クラスで分かれています。メンバーも少し変わってきます。

授業は週ごとにテーマが決まっていて、1 週目 : Living in Communities、2 週目 : Sport in the World、3 週目 : The Consumer、4 週目 : Global Citizen、という感じでした。AM クラスではテーマに沿った単語を覚える、カナダのドラマ (?) を見る、たまに他クラスとの合同もありました。その他にも、先生ではない人が来てその人に質問をするといったようなこともしました。1 週目は、ペアでの自己紹介などクラスメイトを知っていくことを基本的にやっていきました。近くのガーデンまで話しながら歩いたりもしました。2 週目の Sport in the World では 1 つの dangerous sport についてグループでスライドを作り他クラスのグループにプレゼンをしたり、最終日にはペアで話し合い自分たち独自のルールを作つて他のペアとそのゲームをしたりしました。3 週目は先生ではない人が数人クラスに来て、生徒 4 人で一人に consumer について聞きました。質問内容は自分で考えます。

PM クラスでは主に教室から出て学校内の人々にインタビューをしたり、班ごとに分かれてテーマに沿った内容を各グループで話し合いスライドなどを使って発表したりしました。一度、クラスで大学を離れてお店の店員さんにインタビューをしたこともあります。お世話になった先生は合計 3 人で、どの先生もとてもいい先生でした。わからない単語などあるとわかりやすいように説明してくれたり、面白い話をしてくれたり、この 3 人の先生方に教えてもらうことができてとてもよかったです。授業の最終日の PM クラスではなく、AM クラスのメンバーで授業中にやったゲームを参考に自分たちでゲームを作り、全生徒合同で他のグループが作ったゲームに参加したり、自分た

ちが作ったゲームを他クラスの生徒にやってもらいました。それが終わった後はランチタイムでその後解散となりました。

放課後や土日はいつも誰かとどこか遊びに行っていました。早いうちにホームファミリーと連絡を取れるようにして置き、外食の時は早めに連絡をして、そうでない場合は多くの人は7時にディナーの人が多かったのでそれまでには家につけるようにして置いていました。バンクーバーには多くの観光地があり、1か月では足りないくらいでした。私が行ったのはキツラノビーチ、スタンリーパーク、ガスタウン、ダウンタウン、メトロタウンなど本当に色々な所を観光しました。ダウンタウンは一番行きやすく栄えている場所です。私は友達と一緒にスウィーツ巡りをしたり、服屋を巡ったりと歩いているだけでも楽しい場所です。そのダウンタウンの一部がガスタウンという場所です。ガスタウンの中にはチャイナタウンという場所があり、そこは危険地帯で浮浪者が集まる場所です。なので、ガスタウンにも浮浪者が所々いて少し治安は悪いです。しかし、いろんな店があって良いスポットでした。お土産の店もガスタウンにあり、多くのグッズがそこで買うことができます。もし服などを安く買いたい場合はメトロタウンのほうをお勧めです。ビーチの夜景はとてもきれいで一度見てみる価値はあるかなと思いました。ナイトマーケットといい夏限定金、土、日で開催される日本の屋台のようなお店が並ぶところがあります。屋台と違い、しっかりとしたご飯が食べられるのですが種類も豊富でおいしそうなお店がたくさんあります。ここでは現金しか使えないかったです。私たちは大学のプログラムでシアトル1泊2日するアクティビティに参加しました。CA(UBCの学生)と一緒に行きます。しかし、着いたらほぼ自由行動でした。事前に申し込んでいたスペースニードルというスカイツリーみたいな建物に上ったり、アマゾン The Spheres のなかを見学しました。意外と時間に余裕がなくバタバタしていました。最後、バンクーバーに帰る前にアウトレットに行きました。そこはとても広く、バラエティー豊富なショップがたくさんあり、そこで大量の買い物をしている人が多かったです。

私は放課後や休日などを使って自分で行きたいと思っているところは特になかったので、友達が行きたいと言っているところについて行くばかりでしたが、どこもとてもいいところでした。食べ物がとてもおいしく、私はピザが好きなのでランチタイムで教室がある建物の近くにあるピザ屋で買っていました。日本食のお店も多くあり、私は日本食が恋しくなることはありませんでした。

今回、初めての1か月もの滞在に少し緊張していました。一緒に行く人で誰一人知り合いがいない中、英語がとても苦手な私がしっかりと暮らしていくのかとても不安でした。しかし、行ってみるととてもいい人が多く、すぐに緊張をほぐすことができました。このプログラムには多くの大学から生徒が来ていて、8, 9割が日本人の生徒でした。農大だけでなく他大学の人とも仲良くなれたことはとてもよかったです。

3. 目的達成度の自己評価

海外の文化を身近に感じることはとても大事なことだと改めて気づきました。ホームステイをしていたこともあり、ディナーの時間にはホストファミリーとたくさん話しました。色々な質問してくれたり、説明してくれたりととても素晴らしい家族でした。最初はほとんど聞き取れず何度も聞いてしまっては迷惑がられてしまうと思い YES で終わらせてしまいがちでした。しかし、過ごしていくうちにわからない単語をわかるまで質問をしたり、聞き取れなかった部分を繰り返してほしいと言ったりできるようになりました。最後の一週間は全部を聞き取れるようになったわけではありませんが、なんとなく何を話しているのか理解できるようになりました。自分からも積極的に話せるようになりました。文法はめちゃくちゃでしたが初めのころよりも

るかに会話が弾むようになりました。ただし、放課後や休日は日本人の友達と遊ぶのでどうしても日本語を話すようになってしまい英語力を上げるという点ではマイナスなことをしてしまったと思っています。

4. 今後の取り組み

今後は今回の留学でできた仲間と一緒に英語力をもっと向上していけたらと思っています。一番私が向上させたいのは英語での会話なので、英会話喫茶などを利用して今回の経験と得られたものを無駄にしないようにしていきたいです。

5. 持って行って良かったもの、

- 電子辞書：Wi-Fiがない時でも翻訳できる
- 上着：気温差があるので温度調節できるものがあると便利
- ファイル：プリントがたくさん配られるのであったほうが良い
- 圧縮袋：服などを買ったときに圧縮できると帰りにとても役に立つ。3 COINS のものが大きくて強いのでお勧め
- サブバック 2つ：一つは学校用のほかにお出かけ用で貴重品とかだけを入れる小さめのバックがあると便利。もう一つは帰りの機内持ち込み用でキャリーバックに入りきらなかった分を入れておくのに便利
- ノート：わからなかかった単語などをメモつておける
- 水（機内）：飛行機内はとても乾燥していて、機内で出される水だけでは足りなかつた

用意したがいらなかつたもの、

- アメリカのビザ：空路と陸路でビザが違うので事前に準備しておく必要はない
-

現地で使用したお小遣いの金額（箇条書き）

- コンパスカード（定期）：カナダのスイカ的なもの。1ゾーン 98 ドル。ただし、18歳以下は 56 ドル。私は定期という存在を知らずにチャージを繰り返していました。合計 130 ドルチャージすることになってしまった。（18歳）
- 一食だいたい 10 ドルほど
- ペットボトルの水の平均価格は大体 2.5 ドルほど。
- ほとんどの場所でクレジットカードが使えるので換金するお金さ少なくていいと思う。（私は 3 万円分を換金）

6. 次年度以降の参加者へ、事前に準備、勉強しておくべきこと（箇条書き）

- ホストファミリーと話す内容を考えておくといい
- ホストファミリーへのお土産。また、それについての説明も少しでいいので頭に入れて置くとよい。
- 薬。海外の薬は日本人の体に合わないこともある。自分が日ごろ飲んでいるものなど、日本人の体に合う薬は日本で買っていったほうが良い
- お弁当箱。ほとんどの家のお弁当箱はガラスでとても重そうだった。私はお弁当箱を持参してこれに入れてほしいと頼んだ。カナダの人はプラスチックが嫌いだ

からだと思う。

- 1か月はとても短い。授業終わりに観光したい場合は、事前に行きたいお店などを調べておくといい。ただし、学校側がいくつかアクティビティを用意してくれているのでそれに参加するのもいいと思う。EX：シアトル1泊2日の旅。ほとんど自由行動である



クラスの集合写真



ナイトマーケット

2019年度「カナダ 短期留学報告書」

生命科学部・分子生命化学科・2学年・藤田光希

●当初の目的

私は、今回のバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学(UBC)で行われた短期語学研修を通して英語力だけでなくカナダの文化についてや、そこに住む人たちの生活様式など様々なことを学ぶことができました。私がなぜこの語学研修に参加したかと言うと、まず第一に英語力の向上が一つです。私は、他の教科より英語が苦手で長文読解などに毎回苦戦していました。そのため、なんとかしなくてはいけないと思い考えていた時にこの語学研修があることを知りました。そして少しでも英語力が上がるのではないかと言う期待を込めてこの研修に応募しました。また、私は海外の文化などにも興味があり、日本の文化とは違う文化も一度は肌で実感してみたいと思っていました。もちろん、肌で実感すると言うことはその場の生活に溶け込む必要があり、普通のホテルなどに泊まるではなくやはりホームステイすることが最も大事だと思いました。そのような考えもありこの語学研修に参加させてもらいました。

●目標達成のために現地で活動した内容

今回、上記の目的を達成させるため授業やホームステイ先などで積極的に英語を用いて会話をするように意識しました。最初は、あまり上手く話すことができず大変でしたが、それでも話をしている相手の方はしっかりと最後まで聞き取ろうとしてくださるので伝わるよう努め続けました。このような生活を繰り返しているうちに微量かもしれません、なんとなく自然な形で英語を話せている感じがしました。このことは、非常に大きな収穫だと思います。また、毎週木曜日の午後のクラスではプレゼンテーションがありました。このプレゼンテーションまでの流れとして、火曜日に街に出てカナダに住んでいる方々に直接様々な質問をしたり、クラスでグループワークをしてお互いの意見を出し合ったりして細かなところまで調査をして、水曜日にその調査内容を大きな紙にまとめて、木曜日のプレゼンテーションに備えると言う流れです。それぞれの週によってプレゼン内容は異なり、第1週目は『自分の家族について』、第2週目は『自分たちが考え出したスポーツのルール説明』、第3週目は『町にある店調査』、第4週目は『カナダの偉大な人についての調査』でした。最初は、流ちょうに英語を話すことができず、日本語を讀んでいるかのような話し方をしていましたが、毎週のプレゼンテーションを行って、その感想を書いて提出する際に、毎回のように先生からアドバイスをいただき少しづつ英語を話していく感じに改善していくことができました。また、最初は、自分でらかじめ作った原稿を

ひたすら音読しているようなプレゼンテーションが多かったのですが、週を重ねるとともにだんだんその場で音読をせずに、手の動作などを使ってその場で臨機応変な対応が取れるプレゼンテーションができるようになりました。このことは、英語力だけでなくプレゼンテーション能力も向上したと思いました。

●目標達成と自己評価

今回の短期語学留学を通して、英語力については日々の授業でリーディング、ライティング、スピーキング、そしてリスニングを繰り返していたので少しは向上したと思っています。特に、リスニングについては、現地の人とコミュニケーションをとる中で自然に聞こえてくることが多くなってきたので一番向上したのではないかと思っています。特にリスニング力とスピーキング力を向上させる機会となったのは、やはりホストファミリーと食事の時間に積極的に会話することや、クラスメイトが日本人でも英語を用いて会話することだと思います。もちろん言語の壁があり伝わらせきれなかったこともたくさんあり非常に苦戦しました。しかし、それでも諦めずに英語を発して聴き続けていると自然に頭に入ってくるような感じが最後になるにつれてありました。この点は、非常に評価すべき点だと思います。しかし、リーディング力に関してはあまり成長が見えなかつたので、これからも絶えず読解練習はしていかないといけないものだと思いました。しかしながら、読み方は昔に比べて少し改善はされてきたのではないかと思っています。その理由として、しっかり文章のキーセンテンスを見つけ出すことができるようになったり、文法的解釈ができるようになったり、そのおかげで難しい文章を毎回、日本語に直しながら読むことがなくなりてその点では、当たり前のことだけでも悪い癖がなくなったと言う観点では良かったです。

また、カナダの文化という言い過ぎになるかもしれませんのが日本とカナダの違いをたくさん肌で感じることができました。その一例として、バスに乗車するとき日本では「おはようございます。」や「こんにちは。」などの挨拶をすることはまずあまり考えられることではありませんが、カナダでは毎回バスに乗る度に「おはようございます。」や「こんにちは。」という挨拶を行うのです。この点を見て、カナダの人はとても穏やかな人が多いと思いました。また他にも、バスに体の不自由な人が乗ろうとしているときにバスに乗っている人が声を出し合って体の不自由な人が乗れるだけのスペースを確保してあげたりしていました。本当に親切な人も多いのだと感じました。文化的な観点で見ると、バンクーバーはトーテムポールが非常に有名らしく、そのトーテムポールの表情も穏やかな顔から怒りを表しているような顔まで様々ありました。このトーテムポールの顔は日本の大仏や風神雷神像などとは別の味を出していて国が違うとやはり見え方までだいぶ変わっててしまうのだなと感じました。

金銭的な面でも大きな違いを感じました。日本では一度も払ったことのないチップもカナダのレストランなどでは支払わなければいけないということでした。しかし、このことは

日本と違い、いまだお給料などが少なくその差額を貯うためのものであろうと自分で解釈しています。この面では、やはり日本とカナダで考え方方が大きく違うと感じました。

●今後の取り組み

今回の短期語学研修を通して今まで苦手意識が強かった英語を少し楽しいものであるという風に感じることができました。その中でも、今回自分の中でも一番向上したと思われるリスニング力が試験などではどこまで通用するようになったのかとても確かめてみたいです。例えまだ、試験を受けてボロボロな結果になってしまったとしても絶えず英語の音を聴き続けたいと思っています。また、これからも自宅などで英語のラジオ番組を聴くようにしたり、英語で映画を見るようするなど英語から遠ざかっていかないような生活を送っていきたいと思っています。他にも、TOICEなどの実用英語の試験などの勉強も行なって文法についての再度復習や先ほどまだ完全には改善されたとは言えない長文読解力（リーディング力）により一層磨きをかかるように日々努力をしていきたいと思っています。今後は、ここに示した大きく分けて2点（リスニング力とリーディング力）についてさらに取り組んでいきたいと思います。

●持つて行って良かったもの、用意したがいらなかったもの

今回の短期語学研修を持って行って良かったものは、日本製のシャンプーやボディーソープです。私のホームステイ先はこれらの日用品を貸してくれると言っていましたが、自分の体に合わなそうな感じがしていたので一度も使用することはありませんでした。また、バンクーバーは東京と違い緯度が高く朝方は非常に寒いです。この気温差から体調を崩される方がたくさんいらっしゃいました。私もバンクーバーにいる間はずっと喉が痛く風邪気味でした。そこで、どうにか直そうと毎日のように日本から持って咳止めや風邪薬を服用していました。このおかげで、喉の痛みは続いたものの、立ち上がりなくなるほどの大きな風邪を引くことなくしっかりと帰国することができました。なので、しっかりと自分の体に合うシャンプーやボディーソープを使い、風邪気味になったときでもすぐに服用できるように常に風邪薬などを持参しているととても良いと思います。また、朝食が毎日シリアル、昼食のランチボックスの中身が毎日サンドイッチと変化しなくておもしろくなかったので、これは日本で買って持ってきたのではなくダウンタウンにある日本食を売っているお店で買った味噌汁、納豆、そして日本米を用いたレトルトご飯をたまに買って食べていました。また、お土産に関しても帰るとき全てをチャリーバックに詰められないのではと思い、家から前もってしっかりとお土産袋を持っていきました。そのため私は帰りにお土産が入りきらずに、またカナダで新しいお土産袋を買うという手間を省くことができましたが、UBCでのクラスメイトの多くはお土産をチャリーバックに収めきれずとても悩んでいたので、家からお土産袋を持って行って良かったと思いました。

●現地で使用したお小遣いの金額

私は、カナダに現金を 5.5 ドルとクレジットカード 2 枚を持っていきました。カナダは基本的にはどこでもクレジットカードを使って決済することができるので、現金は意識して使おうとしないと本当に減ることがありませんでした。また、カナダに行ってすごく便利だと感じたのはクレジットカード払いの場合でもしっかり割り勘ができるということです。私は、最初は割り勘できないのかなと思っていたが、店員の方に割り勘をしたいという主旨の話をすると毎回しっかり人数分で割った形で支払わせてもらいました。

この 28 日間カナダに滞在して、私は現金とクレジットカードの合計金額が 13 万円くらいいってしました。週に 3 回くらいは友達と外食に行ったり、空港の近くにあるアウトレットでたくさん買い物をしてしまったのでそれが原因であると反省しています。なので、しっかり計画的に使っていくことをお勧めします。

●次年度以降参加する人の準備しておくべきこと

- ・ある程度はしっかり英語を勉強していくこと。
- ・お味噌汁の素などを持参していくこと。
- ・計画的にお金を使うこと。

2019 年度 カナダ短期留学報告書

応用生物科学部・食品安全健康学科・2年・那倉 里依

1. 当初の目的

カナダのブリティッシュコロンビア大学(ELI)に4週間短期留学をした。当初の目的は、スピーキング力を向上させること、日常生活の中で英語を使用すること、他国の文化を学ぶことの3点であった。全て英語で行われる授業を受けることや現地のホストファミリーと生活を共にすることで、自分を英語漬けの環境下に置き、かつ文化を学べることから、参加を決意した。

最近、アルバイトで外国のお客様の対応する場面が増え、英語力の低さから、商品の説明が上手く出来ず、注文を間違えてしまうことも多くあった。少しでも英語を話すことが出来たら、お客様に喜んでいただけたと考えると、不甲斐なさを感じていた。以前からスピーキング力の重要性は感じていたが、アルバイトでの経験を通して、より一層スピーキング力の重要性を認識した。しかし、日本で生活をしていると、大学では英語を母国語としている人はほとんどいなく、また授業では読解やリスニング対策が多いため、英語を話す機会が圧倒的に不足していると感じていた。

日本での経験から、カナダに留学することで、自分の周りの環境を変化させることで、少しでも英語のスピーキング力を向上させたかった。更に日本においては知ることが出来ない他国の文化・慣習を知りたかった。これらの点が留学に参加しようと思った目的である。

2. 目的達成のために現地で活動した内容

最初に、「スピーキング力の向上」と「日常生活で英語を使用すること」について述べようと思う。ELI の授業では、初日のスピーキングテストによって振り分けられたクラスごとに、決められたテーマのもと進めていった。

1週目は「Living in community」、2週目は「Sports」、3週目は「Consumerism」、4週目は「Global citizens & Environment」の4テーマであった。午前と午後で内容は異なり、午前は語彙、文法、発音、ライティング、ディスカッション、午後はプレゼンテーションの準備や発表という内容であった。両時間ともに、グループやペアで取り組むことが多かったように感じ、日本での授業形式とは異なっていた。

1週目から順に活動内容をまとめていく。

1週目で特に印象に残った内容は、スケベンチャーハント(午前)と UBC のキャンパス内で UBC の学生や一般人にインタビューしたことである(午後)。スケベンチャーハントとは、グループ毎に指定された場所・物を探し、関連するクイズに答えるというものであ

る。自分たちのみで、答えを探すことが難しい問題がいくつかあった。クイズの答えを探すために、通行人や施設の人に積極的に質問したことは、スピーキング力を伸ばすのに効果があったと思う。グループを組んだ人は全て日本人学生であったが、英語でなるべく会話するように心がけた。伝えたいことが浮かんでいても、上手く単語に置き換えることがず、苦労したこと多々あった。この時でも、簡単な単語に置き換え、多く会話するよう心がけたところ、到着した日よりも会話力が少し向上したように感じられた。

午後のクラスでは、午前のクラスよりも実践的な内容を扱った(主に、プレゼンテーション)。プレゼンテーション前に、キャンパス内にいる人に、テーマに関連する質問をして、情報を集めた。最初の週は、理想のコミュニティセンター、身体的・社会的・教育的幸福を満たすために取り組んでいる活動(アクティビティ)等についていくつか質問した。質問事項を事前に考えていたものの、外国の人にインタビューをすることは初めてだったので、始める前に少し緊張感があった。しかし、実際にインタビューをしてみると、多くの方が快く質問を受けてくださり、各自しっかりと意見を持っていた。このインタビューによって、英語を話す機会を多く得られたほか、生の英語を聞くことができ、リスニング力の強化になった。インタビューで得た情報を、ペアの学生と共有し、重要な点をディスカッションした。その後、ペアで協力してパワーポイントを作成した。作成したパワーポイントを用いて、他グループに発表した。発表する前には、自分たちが作成したスクリプト中の文法や冠詞等のミスを、インストラクターに直していただいた。他グループに発表することで、客観的に、発音・抑揚・ボリュームを見てもらい、フィードバックを英語で受けた。1週目の授業は、初めてのことばかりで上手くいかないこともあったが、「読む」「聞く」「書く」「話す」の全ての技能を学ぶことが出来た。特に、ディスカッションやインタビューを多く行ったことで、「話す」技能が強く鍛えられたと思う。

2週目は「Sports」について学んだ。午前クラスで興味深かった授業は、グループで「保護者は子どもに個人スポーツと団体スポーツのどちらをさせるべきか」についてディスカッションしたことである。2週目になって意見も活発に出るようになり、自分自身も意見を前週よりもスムーズに述べることが出来た。この時、ディスカッションの際に役立つ表現を学んだ。学んだことをまとめ、クラス全員の前でロールプレイをしたことはとても楽しかった。他グループのロールプレイを見て、自分のグループには足りなかったものを学んだほか、様々な意見を聞くことができ、為になった。

学生同士でのディスカッション以外にも、4人のアシスタントを交えてのディスカッションを実施した。学生のみでのディスカッションと比べて、はるかにレベルが高く、ついていくのに必死であった。常に意見を述べることが求められたが、意見を淀みなく述べることは難しかった。しかし、全てのアシスタントが、自分たちが述べようとしていることを簡単にまとめて下さり、難しい語彙も説明してもらい、徐々に慣れることが出来た。

更にテーマが Sports ということもあり、金曜日には他クラスと合同でボーリング大会を行った。ボーリング場に行くまでのバスの車内で、スポーツの歴史に関するクイズを解

いた。私がペアを組んだのは中国人留学生で、来年開催される東京オリンピックに関する話題で話が弾んだ。午後のクラスでは、スポーツチームの歴史等をまとめたパワーポイントを作成し、他クラスに発表した。

3週目は「Consumerism」について学んだ。午前のクラスで最も興味深かった授業は、グループで新しい商品を考え、コマーシャルを作り、プレゼンテーションをしたことだ。私のグループは「マジカル・ナイフ」についてプレゼンをした。他にも「サプリメント」「掃除機」「マジックカーペット」等のアイディアが出た。午後のクラスで最も興味深かった授業は、グランヴィル・アイランドにクラス全員で行き、グループ毎に分かれて3つのお店に取材に行つたことだ。お店の人には「季節ごとに客数の変化」、「やりがい」、「店のポピュラーな商品」等の質問をした。また、グランヴィル・アイランドにいる観光客にインタビューを行つたりした。

4週目は「Global citizens & Environment」について学んだ。プレゼンテーションこそなかったものの、ディスカッションの割合が多くたったように思う。「あなたが定義する、Global citizensとは？」の質問は1週目と比べて意見をスムーズに述べることができ、短い期間ながらも成長を実感した。

次に、「他国の文化を学ぶこと」について述べようと思う。初めに気づいたことは、標識や店の看板に英語表記だけではなく、フランス語表記もあったことである。

ケベック州や首都オタワなど、フランス語を話す地域もあることから、カナダならではを感じた。日本の標識には、日本語しかないことが多い。近年、日本に住む外国人等も増えていることから、英語表記を付けることも、配慮の観点から検討した方がいいと思う。

ELIに行くのにも、観光地を訪れるにもバスを使う必要があった。バスの中でも、色々な発見があった。まず、バスの乗客の国籍が豊かであったということだ。アジア系の人からヨーロッパ系の人々に至るまで、日本においてはなかなか見ることの出来ない光景であった。国籍は異なるものの、カナダにいる人はお年寄り、子ども、車椅子を使う人には親切であり、微笑ましかった。日本にいると、常に忙しさの方が前面に出ていて、周りを気遣う心がない人が多いように思う。日本とカナダの国民性の違いを学んだ。バスの中では、ブラジルの方が気さくに話しかけてくれて、会話が弾んだ。最後には「Have a nice Seattle trip!!!」と声をかけてもらった。

また、観光地で、地図やスマートフォンを見て、立ち止まっていると「どこに行きたいの？この道を進むと行けるよ」と声をかけてもらうことが多かった。

日本では、道に迷っても誰かに声をかけることが難しい。しかし、カナダでは、声をかけるとほとんどの人が立ち止まってくれて、親切に教えてくれる。カナダでは困っている人がいたら、助けようとする温かい心を持った人が多いことに気づいた。

街中に限らず郊外にも中国人や韓国人が多く住む場所があり、それもあってか中国・韓国の食材を買うことが出来る場所が多くみられた。他にも、ベトナム料理、インド料理、日本料理も味わうことが出来た。各国の料理が融合しているものもあった。

カナダは様々な国の文化・人を尊重しあって、全ての人にとって暮らしやすい環境を整えている国であると改めて認識した。

以上が3つの目的を達成するために活動した内容である。

3. 目的達成度の自己評価

まず、「日常生活において英語を使用すること」については、ホームステイを除き概ね達成できたと思う。家庭の事情により、ホストファミリーと話す機会がほとんどなかつたのは残念であった。しかし、様々な場所を訪れた際に、店員さんにお薦めの商品や料理の味などを聞いたほか、観光地で出会った人と会話を積極的にしたことで、流暢に話せるレベルまでは達成していないが、日本にいたときよりも英語がスラスラ出てきたように思う、

次に「スピーキング力の向上」についてだが、日本での授業に比べて海外での授業はディスカッションの授業やグループワークが多くたったように思う。また、ELIのポリシーがイングリッシュ・オンリーということもあり、半強制的に英語を話す環境があつたので、流暢に話すことは出来なかつたが、以前と比べて言われたことに返答するスピードも上がつたように感じる。先生やグループの学生から、自分の発音を褒められることが増え、嬉しかつた。

最後に「他国の文化を学ぶこと」についてはほとんど達成できた。ELIに向かう途中のバスから週末の観光に至るまで、たくさんの文化を学ぶことが出来た。カナダにいながらも、日本料理を頂くことが出来た。日本料理以外にも、世界各国の料理（インド料理、中華、韓国料理など）を目にする機会があつた。いたるところに、チャイナタウンやコリアンタウン等があることに気づいた。日本ではある国の中を排斥したりすることがあるが、カナダでは排斥するのではなく融合させて、それぞれ暮らしやすいような環境が整つてることを学んだ。また、カナダ人は、お年寄りや子どもに親切な人が多いことに、日本との違いを感じた。

4. 今後の取り組み

1か月という短い期間だったので、流暢に話せるレベルには達していない。1か月間カナダで生活を送ることで、強制的に英語を話す環境を得られた。日本にいると、カナダと同様の環境を求めるのは難しいので、オンライン英会話等を利用して、英語を話す機会を自ら作るようにする。また、留学生と交流することが出来るイングリッシュカフェに、積極的に参加する。以前からTOEICは受験していたが、スコアをこれまで以上に伸ばせるよう、留学で学んだことを生かしていく。

5. 持って行って良かったもの、用意したがいらなかつたもの、現地で使用したお小遣いの金額

持つて行って良かったもの

- ・ポケット wi-fi
- ・スマートフォン
- ・携帯バッテリー
- ・クレジットカード
- ・水筒
- ・常備薬
- ・(あれば) パソコン
- ・1週間分の衣類 (特に下着)

用意したがいらなかつたもの

- ・日本食 (ホームステイ先の環境による)
- ・電子辞書

現地で使用したお小遣いの金額

- ・クレジットカードで 6 万円以下、現金で 5 万円以下 (人によって大きく異なる)

6. 事前に準備、勉強しておくべきこと

準備に準備しておくこと

- ・風邪薬等
- ・必要であれば、wi-fi の設定
- ・重要書類のコピー等

勉強しておくべきこと

- ・英会話



@フェアウェルパーティー クラスマートと先生